

2016 年春季年会

# 年会プログラム

於 首都大学東京

2016 年 3 月 14 日 (月) ~ 3 月 17 日 (木)

日本天文学会

# 日本天文学会 2016 年春季年会プログラム

期 日 2016年3月14日(月)～3月17日(木)

場 所 首都大学東京南大沢キャンパス(東京都八王子市)

電 話 090-4387-6893 <使用期間 2016年3月14日(月)～3月17日(木)>

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
3月14日 (月)	A			受 付			R. 銀 河	ALMA 特別セッション (G会場)		天文教育 フォーラム (G会場)		理事会
	B						P1. 星・惑星					
	C						Y. 教育・他					
	D						V2. 観測機器					
	E						N. 恒 星					
	F						L. 太陽系/S. 活動銀河核					
	G						Z2. プラズマ宇宙					
	H						K. 超新星爆発					
	I						T. 銀 河 団					
	J						ジュニアセッション					
3月15日 (火)	A	受付	R. 銀 河	昼休み (代議員総会)	ポスター		M. 太 陽	会員 全体集会 (G会場)		受賞記念講演 (G会場)		
	B		P1. 星・惑星									
	C		Y. 教育・他									
	D		V2. 観測機器									
	E		N. 恒星/W2. 高密度星									
	F		S. 活動銀河核									
	G		Z2. プラズマ宇宙									
	H		Z3. 計算惑星									
	I		Q. 星間現象									
	J											
3月16日 (水)	A	受付	M. 太 陽	昼休み	ポスター		M. 太 陽	SPICA 特別セッション (G会場)				懇親会
	B		U. 宇 宙 論									
	C		P2. 星・惑星									
	D		V1. 観測機器									
	E		W1. 高密度星									
	F		V3. 観測機器									
	G		X. 銀河形成									
	H		Z1. T A O									
	I		Q. 星間現象									
	J		Z4. ニュートリノ									
3月17日 (木)	A	受付	M. 太 陽	ポスター	昼休み							
	B		-									
	C		P2. 星・惑星									
	D		V1. 観測機器									
	E		W1. 高密度星									
	F		V3. 観測機器									
	G		X. 銀河形成									

A会場 : 1号館 1F 101 教室  
 B会場 : 1号館 1F 110 教室  
 C会場 : 1号館 1F 120 教室  
 D会場 : 1号館 2F 201 教室  
 E会場 : 1号館 2F 210 教室  
 F会場 : 1号館 2F 220 教室  
 G会場 : 1号館 2F 230 教室  
 H会場 : 1号館 2F 240 教室  
 I会場 : 1号館 3F 301 教室

受 付 : 1号館 1F  
 ポスター会場 1 : 1号館 1F 102 教室  
 ポスター会場 2 : 1号館 1F 103 教室  
 ポスター会場 3 : 1号館 1F 104 教室  
 ポスター会場 4 : 1号館 1F 105 教室  
 ポスター会場 5 : 1号館 1F 109 教室  
 ポスター会場 6 : 1号館 2F 202 教室  
 ポスター会場 7 : 1号館 2F 203 教室  
 ポスター会場 8 : 1号館 2F 204 教室

ポスター会場 9 : 1号館 2F 205 教室  
 ポスター会場 10 : 1号館 2F 206 教室  
 ポスター会場 11 : 1号館 2F 208 教室  
 ポスター会場 12 : 1号館 2F 209 教室  
 展示コーナー : 1号館 1F  
 1号館 3F 309 教室  
 会 議 室 : 1号館 2F 207 教室  
 懇 親 会 : ルヴェソソソヴェール  
 (国際交流会館)

### ◎講演数

講演数：合計 669

(口頭講演 (a)：422、ポスター講演 (b)：184、ポスター講演 (c)：63)

### ◎参加登録について (参加者は、当日必ず参加登録をしてください。)

2011年秋季年会より、講演登録費は、講演申込時にお支払いいただく事になっています。

#### ○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み)
(但し講演ありの場合、参加費は無料)		
講 演 登 録 費	3,000 円 (不課税)	10,000 円 (消費税込み) (1 講演につき)
(但し事前支払がない場合は、会員 4,000 円、非会員 11,000 円)		
年 会 予 稿 集	2,000 円 (消費税込み)	2,000 円 (消費税込み) (購入希望者のみ)

#### ○参加登録受付場所：受付 1 号館 1F

○参加登録受付時間：3月14日 11：00～16：00

3月15日 09：00～16：00

3月16日 09：00～16：00

3月17日 09：00～13：30

※参加費は、会期中に受付にて忘れずにご納付ください。

※参加費用支払い時に渡される領収書は、再発行はできませんので、大切に保管してください。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費の返金はいたしません。

※懇親会に参加される方は、隣の懇親会専用の受付にて懇親会の参加費をお支払いください。

### ◎講演に関する注意

1. 口頭発表は9会場で行います。口頭講演(添字 a)は、口頭発表 9 分、質疑応答 3 分です。ポスター講演(添字 b)は、口頭発表 3 分、3 講演で 12 分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表(添字 b)、(添字 c)は、3月14日の12：00から3月17日の13：00までポスター会場の指定された場所に掲示できます。終了後は速やかに撤去してください。ポスターサイズは縦 180 cm×横 90 cm です。
3. 講演には液晶プロジェクターをご使用ください。液晶プロジェクターは、セッション開始前に PC の接続を確認してください。講演時間は、直前の講演者が降壇した時点から計り始めます。迅速に講演が始められるよう、次の講演者は前の講演中に PC を接続しておいてください。

## ◎会期中の行事

月 日	時 間	会 場	行 事 名
3月14日 (月)	15:15～16:45	G会場	ALMA 特別セッション
	17:00～18:30	G会場	天文教育フォーラム
3月15日 (火)	15:45～16:45	G会場	会員全体集会
	16:45～18:15	G会場	受賞記念講演
3月16日 (水)	15:40～17:20	G会場	SPICA 特別セッション
	17:40～	ルヴェソンヴェール(国際交流会館)	懇親会

## ◎会合一覧表

月 日	時 間	会 場	会 合 名	一般参加可否
3月14日 (月)	18:45～19:45	会議室	理事会	D
3月15日 (火)	11:30～12:30	A会場	太陽研究者連絡会・運営委員会	D
	11:30～12:30	B会場	理論天文学宇宙物理学懇談会報告会	C
	11:30～12:30	D会場	代議員総会	D
	11:30～12:30	G会場	「あかり」データ説明会	A
	11:30～12:30	H会場	宇宙電波懇談会総会	C
	11:30～12:30	I会場	高エネルギー宇宙物理連絡会報告会	B
3月16日 (水)	11:30～12:30	A会場	太陽研究者連絡会・報告会	C
	11:30～12:30	F会場	天文・天体物理若手の会総会	C
	11:30～12:30	G会場	光学赤外線天文連絡会総会	C

※一般参加可否の説明(オープン化の程度)

A: 誰でも大歓迎で是非来てほしい

B: 興味を持った人には広く門戸を開いている

C: 関係グループ向けのものだが部外者も特に拒みはしない

D: 関係者のみにクローズした非公開の会合

## ◎ ALMA 特別セッション：ミリ波サブミリ波高空間分解能観測が切り拓く天文学

日 時：2016年3月14日(月) 15:15～16:45

場 所：G会場

概 要：ALMA 望遠鏡の特徴は高感度に加えて、高空間分解能にあります。基線長を最大15kmまで広げた科学評価観測 (Science Verification) が4つのターゲット (HL Tau、SDP.81、Juno、Mira) に対して行われ、2015年2月にデータが世界中に公開されました。特に、達成された0.03秒角の分解能で見えて来たHL Tauの原始惑星系円盤の隙間は、惑星形成研究に非常に大きなインパクトを与え、その解釈については複数の提案が出ています。また、SDP.81については重力レンズを受けた高赤方偏移銀河の詳細なリング状構造を捉えることに成功しています。本特別セッションでは、2015年4月に予定されているサイクル4観測提案公募に向け、天文コミュニティーの皆様へALMAの高空間分解能観測の性能を十分に理解して頂くため、HL TauとSDP.81のデータから得られた最新の科学的成果を紹介いたします。

プログラム：1. はじめに

2. 科学的成果

惑星形成 (HL Tau)：百瀬宗武 (茨城大学)

銀河形成 (SDP.81)：田村陽一 (東京大学)

世 話 人：松田有一 (国立天文台)

## ◎天文教育フォーラム：「教科書：読む・読ませる・書く」

共催：天文教育普及研究会

日 時：2016年3月14日(月) 17:00～18:30

場 所：G会場

概 要：最新の天文学の成果とそれを産み出す知のダイナミクスを、天文学を学ぶ学生や、興味をもった一般の人々に伝えられていくためのツールは、日々多様化している。ネットメディアなど新しい媒体や動画サイト、多くの講演会、サイエンスカフェなどが市民権を得てきた現代において、知を伝え、学ぶ方法論もまた、変わってきている。そんな中、今回の天文教育フォーラムでは知識を伝え、学びとる方法論のひとつとしての「教科書」の位置づけを再考する。

ひと昔以上前に学生だった方なら既に気づいておられると思うが、ここ20年ほどの間に教科書は質・量ともに大きな変化をとげてきている。このような変化の原因は、どこにあるのだろうか。書き手は、どのような考え方の下で執筆しているのだろうか。また、読み手にとっての教科書の位置づけは、どのように変わってきているのだろうか。大学での教育内容の質的保証や、学校教育の先にある生涯教育の重要性も考慮すべき現在、「教科書」にはどんな可能性があるのだろうか。

学生を教育する上で教科書を読ませる側、書く側、企画する側からそれぞれ意見をいただき、それを元に議論を深めていきたい。

登壇予定者：真貝寿明氏 (大阪工業大学)

岡村定矩氏 (法政大学)

浦山毅氏 (慶應義塾大学出版会)

費 用：天文教育フォーラムのみの参加費は不要です。天文学会年会受付で、その旨お伝えください。

実行委員：高梨直紘、鴈野重之、谷川智康、松本直記、大山真満、木村かおる

## ◎ SPICA 特別セッション：新しい SPICA が目指す天文学

日 時：2016年3月16日(水) 15:40～17:20

場 所：G会場

概 要： 新たな SPICA 計画が、JAXA ミッション定義審査により承認されて計画の概要がかたまり、重要な一歩を踏み出しました。現在、2016年春に迫っている欧州宇宙機構 (ESA) Cosmic Vision のミドルクラス "M5" へのプロポーザル提出へ向けて、準備を進めています。

この機会に、新たな SPICA 計画の活動を広く日本のサイエンスコミュニティに周知し、将来的にミッションプログラム活動を担う研究者が積極的かつ能動的な貢献ができるよう、SPICA 特別セッションを開催致します。

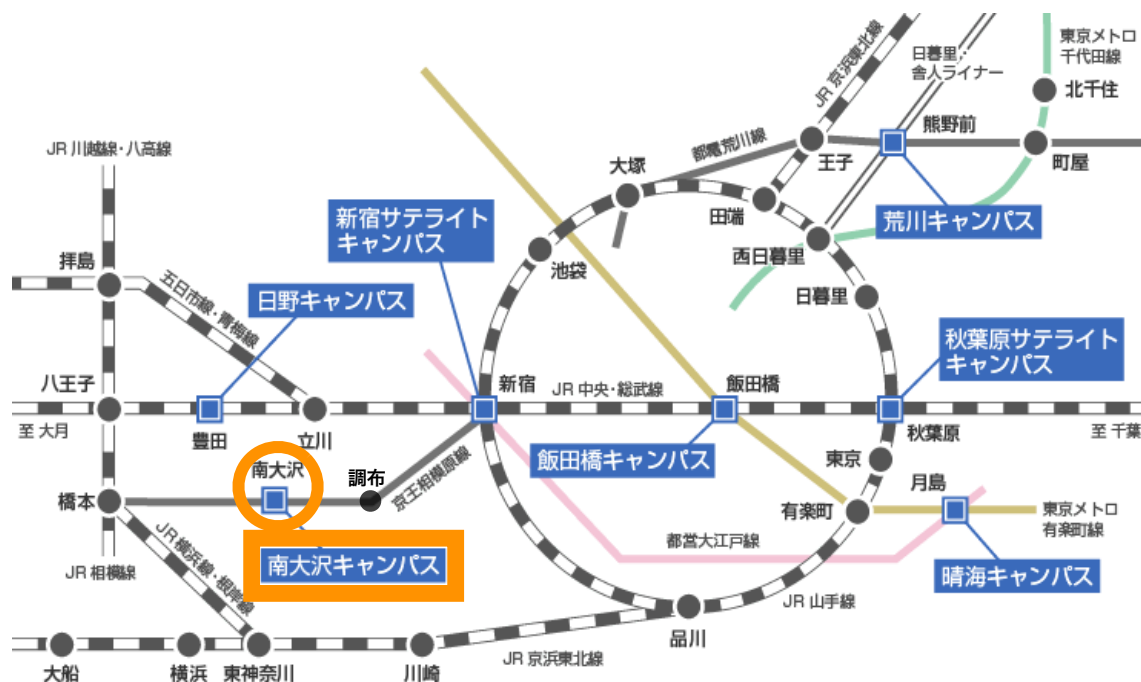
本特別セッションでは、プロジェクトの現状報告、ヨーロッパ側および日本側の観測装置の概要をレビューしたのち、SPICA 計画の機軸となるサイエンスについて紹介します。また、他のプロジェクトとのシナジーを図る事は、サイエンスの議論の深化において不可欠です。従って、本特別セッション内での総合討論の場では、特にこの点に焦点を宛て、天文学会への参加者とのコミュニケーションを図り、フィードバックを得る事を目的とします。

プログラム (講演者敬称略)：

1. 「プロジェクト現状」 芝井広 (大阪大学)
2. 「ヨーロッパ側の状況とヨーロッパ側装置について」 Peter Roelfsema (SRON)
3. 「日本側の装置の現状」 金田英宏 (名古屋大学)
4. サイエンス
  - (1) - 「SPICA による遠方銀河の観測」 江上英一 (アリゾナ大学)
  - (2) - 「SPICA による惑星形成過程と物質進化の解明」 野村英子 (東京工業大学)
5. 総合討論

世 話 人：左近樹 (東京大学)、和田武彦、浅野健太朗、櫛香奈恵 (ISAS/JAXA)

## 首都大学東京 南大沢キャンパス



京王相模原線「南大沢」駅には  
特急・準特急・急行を含む全ての  
電車が停車します

### 南大沢キャンパス

#### 所在地

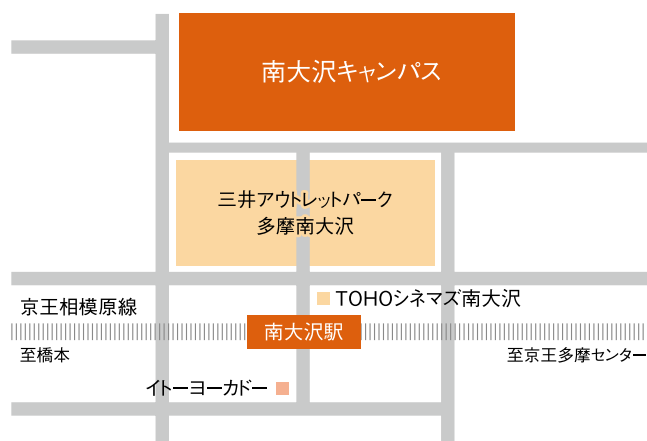
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
TEL. 042-677-1111 (代)

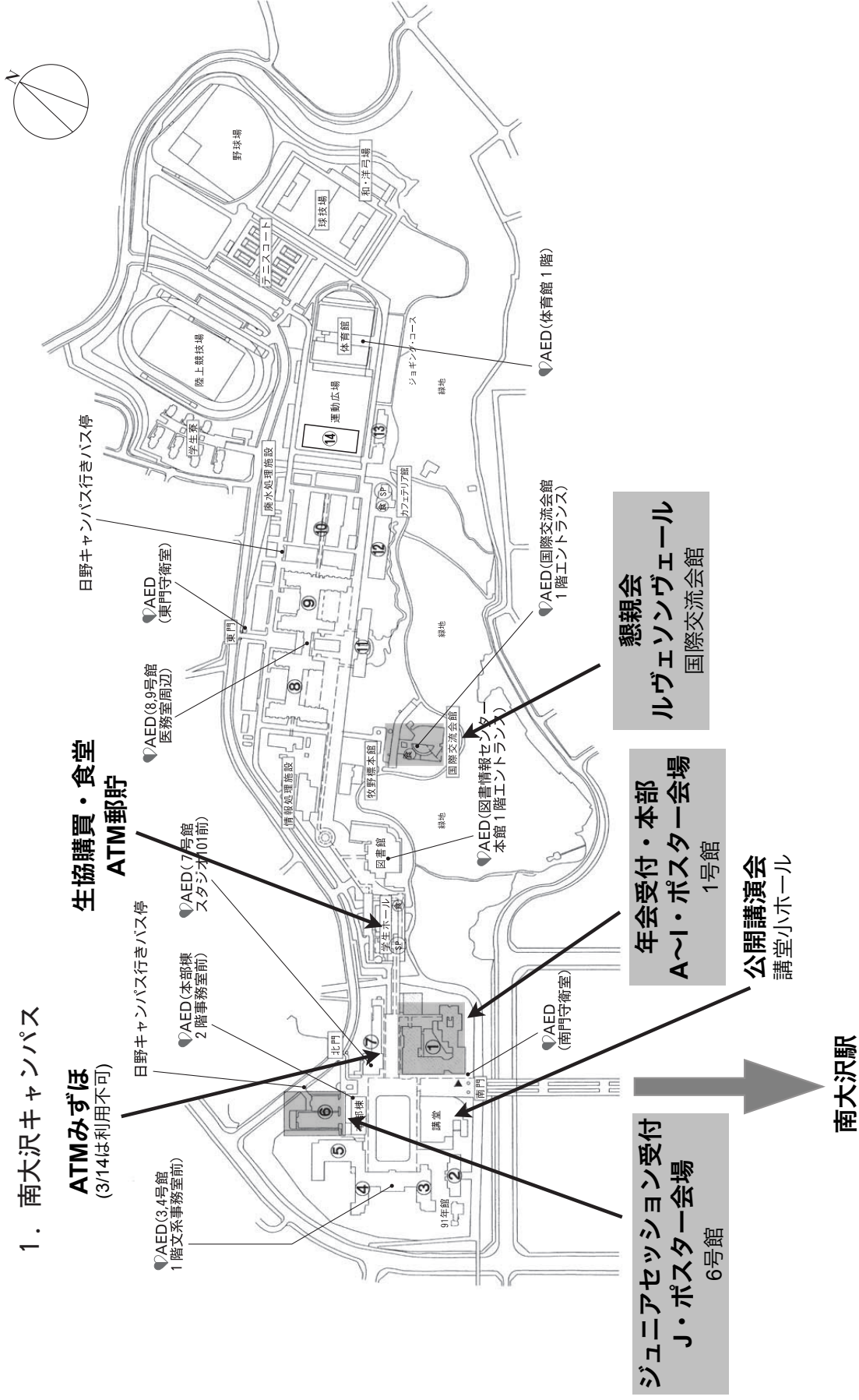
#### 所属組織

都市教養学部、都市環境学部、人文科学研究科、  
社会科学研究所、理工学研究科、都市環境科学  
研究科、人間健康科学研究科、ヘルスプロモ  
ーションサイエンス学域

#### アクセス

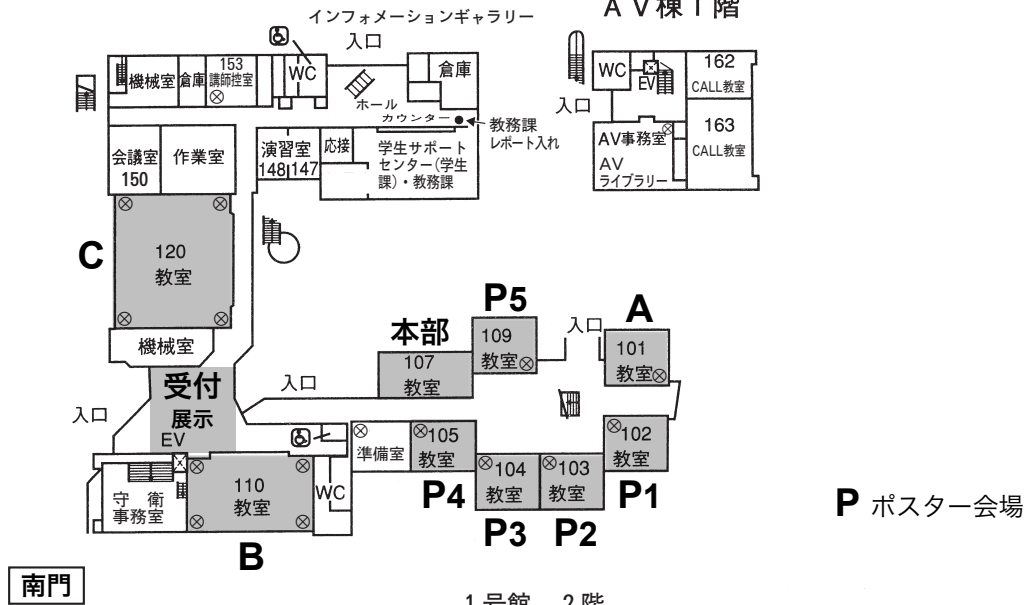
■京王線相模原線「南大沢」駅下車  
改札口から徒歩約5分  
※改札口を出て右手に緑に囲まれたキャン  
パスが見えます。



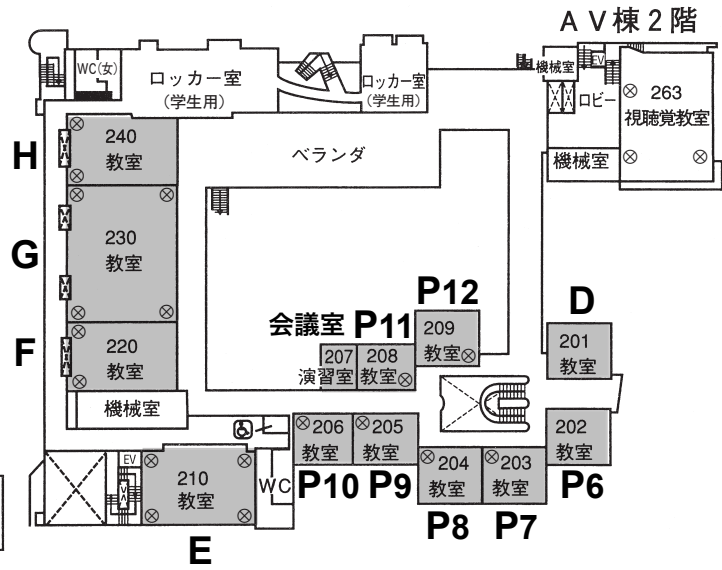




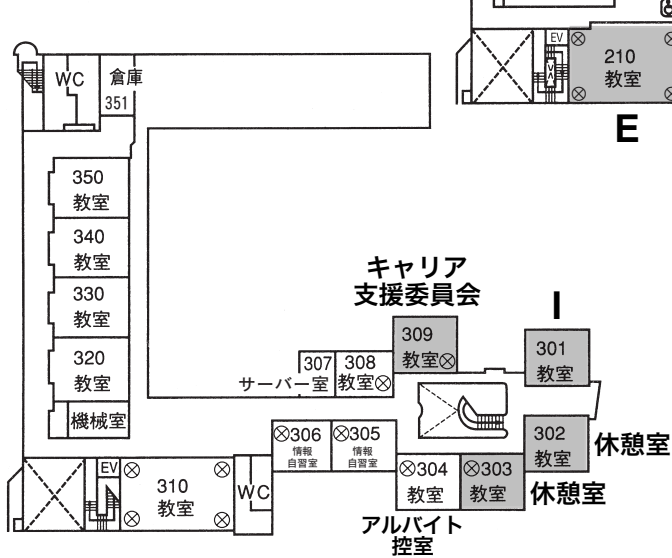
1号館 1階



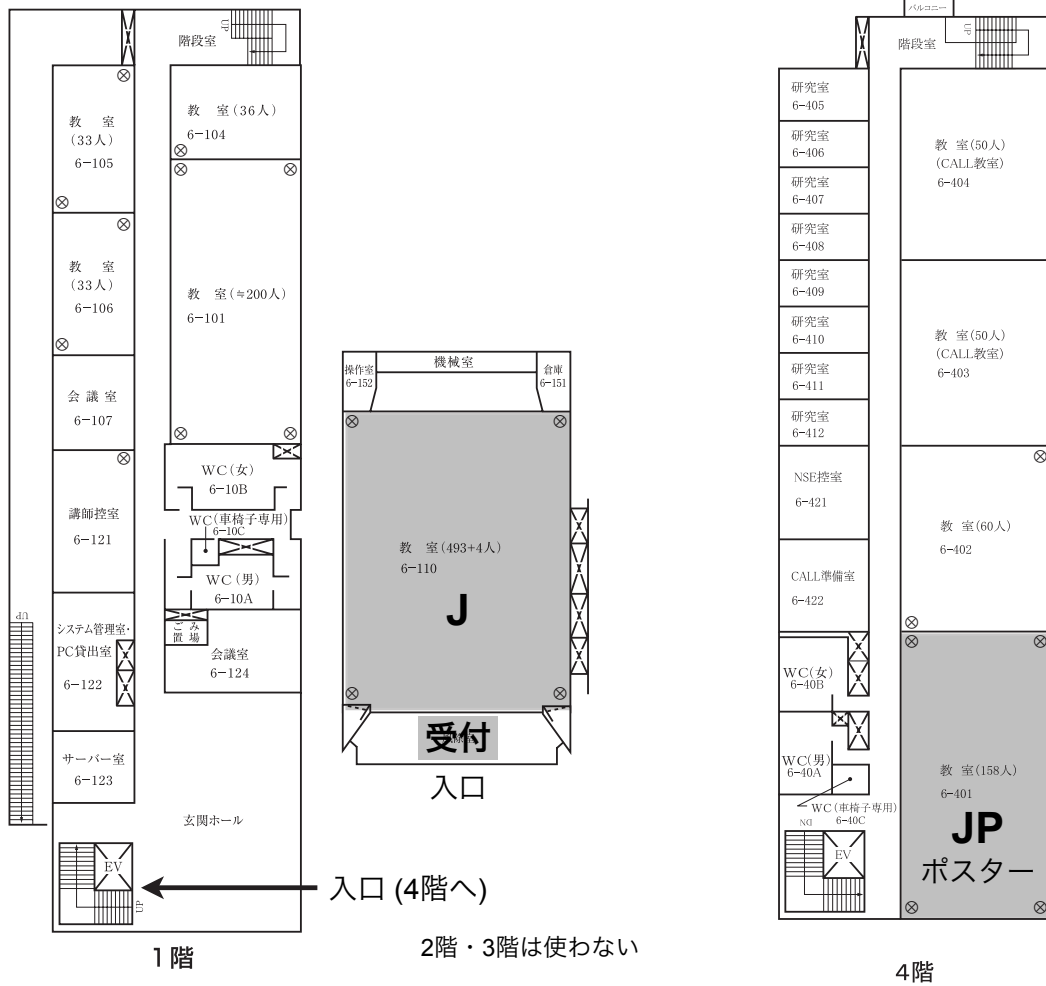
1号館 2階



1号館 3階



## 6号館 ジュニアセッション



## 口頭セッション 3月14日(月)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【銀河】	【星・惑星】	【教育・他】	【観測機器】	【恒星】	【太陽系/活動銀河核】	【プラズマ宇宙】	【超新星爆発】	【銀河団】
13:00	R01a	P101a	Y01a	V201a	N01a	L01a	Z201r ∩ Z216b	K01a	T01a
13:12	R02a	P102a	Y02a	V202a	N02a	L02a		K02a	T02a
13:24	R03a	P104a	Y03a	V203a	N03a	L03a		K03a	T03a
13:36	R04b-R06b	P105a	Y04a	V204a	N04a	L04b-L06b		K04a	T04a
13:48	R08a	P106a	Y05a	V205b-V207b	N05a	S01b-S03b		K05a	T05a
14:00	R09a	P107a	Y06a	V208a	N06a	S04a		K06a	T06a
14:12	R10a	P108a	Y07a	V209b-V211b	N07a	S05a		K07a	T07a
14:24	R11a	P109a	Y08a	V213b-V215b	N08a	S07a		K08b	T08a
14:36	R12b-R14b	P110a	Y09b-Y11b	V216a	N09a	S08a		-	T09a
14:48	R15b,R16b	P111a	Y12b-Y14b	V217a	N10a	S09a		-	T10b-T12b
15:00	-	P112b-P114b	Y15b,Y16b	-	-	-	-	-	T13b
15:15	ALMA 特別セッション (G会場)								
17:00	天文教育フォーラム (G会場)								
18:45	理事会 (会議室)								

## 口頭セッション 3月15日(火)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【銀河】	【星・惑星】	【教育・他】	【観測機器】	【恒星/高密度星】	【活動銀河核】	【プラズマ宇宙】	【計算惑星】	【星間現象】
09:30	R21a	P116a	Y19a	V219a	N11a	S10a	Z217r ) Z234b	Z301r ) Z312b	Q01a
09:42	R22a	P117a	Y20a	V220a	N12a	S11a			Q02a
09:54	R23a	P118b-P120b	Y21a	V221a	N13a	S12a			Q04a
10:06	R24a	P122a	Y22a	V222a	N14b-N16b	S13a			Q05a
10:18	R25a	P123a	Y23a	V223a	N17a	S14a			Q06a
10:30	R26a	P124a	Y24a	V224a	N18b,W201b	S15a			Q07a
10:42	R27a	P125a	Y25a	V225a	W202a	S16a			Q08a
10:54	R28a	P126a	Y26a	V227b-V229b	W203a	S17a			Q09a
11:06	R29a	P127a	Y27a	V230a	W204a	S18a			Q10a
11:18	R30a	P128b-P130b	Y28a	V231a	W205b,W206b W208b	S19a			Q11a
11:30	-	-	-	-	-	S20a	-	-	-
11:30	昼休み (代議員総会) (D会場)								
12:30	ポスター								
開始時刻	【太陽】	【星・惑星】	【星・惑星】	【観測機器】	【高密度星】	【観測機器】	【プラズマ宇宙】	【計算惑星】	【星間現象】
13:30	M01a	P131a	P201a	V232a	W210a	V301a	Z235r ) Z246a	Z313r ) Z324b	Q12a
13:42	M02a	P132a	P202a	V233b-V235b	W211a	V302b-V304b			Q13a
13:54	M03a	P133a	P203a	V236a	W212a	V305a			Q14a
14:06	M04a	P134a	P204a	V237b-V239b	W101a	V306a			Q15a
14:18	M05a	P135a	P205a	V240a	W102a	V307a			Q16b-Q18b
14:30	M06a	P136a	P206a	V241a	W103a	V308b,V310b V313b			Q19a
14:42	M07b-M09b	P137a	P207a	V242b-V244b	W104a	V314a			Q20a
14:54	M10b-M12b	P138b,P139b P141b	P208a	V245a	W105a	V315b-V317b			Q21a
15:06	M13b-M15b	P142a	P209b,P210b	V246a	W106a	V318b-V320b			Q22a
15:18	-	-	-	V247a	W107a	V321b-V323b			Q23a
15:30	-	-	-	-	-	-	-	-	Q24b
15:45	会員全体集会 (G会場)								
16:45	受賞記念講演 (G会場)								

## 口頭セッション 3月16日(水)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【太陽】	【宇宙論】	【星・惑星】	【観測機器】	【高密度星】	【観測機器】	【銀河形成】	【TAO】	【星間現象】
09:30	M18a	U01a	P214a	V101a	W108b W111b,W112b	V324a	X01a	Z101r ∩ Z110b	Q25a
09:42	M19a	U02a	P215a	V102a	W113b-W115b	V325a	X02a		Q26a
09:54	M20a	U03a	P216a	V103a	W116b,W117b W119b	V326a	X03a		Q27a
10:06	M21a	U04a	P217a	V105b-V107b	W120a	V327a	X04a		Q28a
10:18	M22a	U05a	P218a	V108a	W121a	V328a	X05a		Q29a
10:30	M23a	U06a	P219a	V109a	W122a	V329b,V330b	X06a		Q31a
10:42	M24a	U07a	P220a	V110a	W123a	V332a	X07a		Q32a
10:54	M25a	U08a	P221a	V111a	W124a	V333a	X08a		Q33a
11:06	M26a	U09a	P222b-P224b	V112a	W125a	V335a	X09b-X11b		Q34b,Q35b
11:18	M27a	U10a	P225b,P226b	V113a	W126a	V336a	X12b		-
11:30	-	U11a	-	V114a	W127a	-	-		-
11:42	-	U13b-U15b	-	-	-	-	-		-
11:30	昼休み								
12:30	ポスター								
開始時刻	【太陽】	【宇宙論】	【星・惑星】	【観測機器】	【高密度星】	【観測機器】	【銀河形成】	【TAO】	【ニュートリノ】
13:30	M28a	U17a	P227a	V115a	W128a	V337a	X13a	Z111r ∩ Z120b	Z401r
13:42	M29a	U18a	P228a	V116a	W129a	V338a	X14a		Z412b
13:54	M30a	U19a	P229a	V117a	W130a	V339a	X15a		
14:06	M31a	U20a	P230a	V118a	W131a	V340a	X16a		
14:18	M32a	U21a	P231a	V119a	W132a	V341a	X17a		
14:30	M33a	U22a	P232a	V120a	W133a	V342a	X18a		
14:42	M34a	U23a	P233a	V121a	W134a	V343a	X19a		
14:54	M35a	U24a	P234a	V122b-V124b	W135a	V344a	X20a		
15:06	M36a	U25a	P235a	V126b-V128b	W136a	V345a	X21a		
15:18	-	U26a	P236a	V129b-V131b	-	V346a	X22a		
15:30	-	U27a	P237a	V132b	-	-	-		-
15:40	SPICA 特別セッション (G会場)								
17:40	懇親会 (ルヴェソンヴェール(国際交流会館))								

## 口頭セッション 3月17日(木)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【太陽】		【星・惑星】	【観測機器】	【高密度星】	【観測機器】	【銀河形成】		
09:30	M37a	-	P238a	V138a	W137a	V347a	X23a	-	-
09:42	M38a	-	P239a	V139a	W138a	V348a	X24a	-	-
09:54	M39a	-	P240a	V140a	W139a	V349a	X25a	-	-
10:06	M40a	-	P241a	V141a	W140a	V350a	X26a	-	-
10:18	M41a	-	P242a	V142a	W141a	V351a	X27a	-	-
10:30	M42a	-	P243a	V143a	W142a	V352a	X28a	-	-
10:42	M43a	-	P244a	-	W143a	V353a	X29a	-	-
10:54	M44a	-	P245a		W144a	V354a	X30a	-	-
11:06	-	-	P246a	-	W145a	V355a	X31a	-	-
11:18	-	-	P247a	-	W146a	V356a	-	-	-
11:30	-	-	P248a	-	-	-	-	-	-
11:30	ポスター								
12:30	昼休み								

ポスターセッション 3月14日(月) ~ 3月17日(木)

<p><b>ポスター会場 1</b></p> <p>【L. 太陽系】(6)</p> <p>L04b    L05b    L06b    L07c    L08c</p> <p>L09c</p> <p>【M. 太陽】(11)</p> <p>M07b    M08b    M09b    M10b    M11b</p> <p>M12b    M13b    M14b    M15b    M16c</p> <p>M17c</p> <p>【N. 恒星】(4)</p> <p>N14b    N15b    N16b    N18b</p>					<p><b>ポスター会場 4</b></p> <p>【R. 銀河】(7)</p> <p>R16b    R17c    R18c    R19c    R20c</p> <p>R31c    R32c</p> <p>【S. 活動銀河核】(5)</p> <p>S01b    S02b    S03b    S06c    S21c</p> <p>【T. 銀河団】(5)</p> <p>T10b    T11b    T12b    T13b    T14c</p> <p>【U. 宇宙論】(5)</p> <p>U12c    U13b    U14b    U15b    U16c</p>				
<p><b>ポスター会場 2</b></p> <p>【P1. 星・惑星】(17)</p> <p>P103c    P112b    P113b    P114b    P115c</p> <p>P118b    P119b    P120b    P121c    P128b</p> <p>P129b    P130b    P138b    P139b    P140c</p> <p>P141b    P143c</p> <p>【P2. 星・惑星】(5)</p> <p>P209b    P210b    P211c    P212c    P213c</p>					<p><b>ポスター会場 5</b></p> <p>【K. 超新星爆発】(2)</p> <p>K08b    K09c</p> <p>【V1. 観測機器】(20)</p> <p>V104c    V105b    V106b    V107b    V122b</p> <p>V123b    V124b    V125c    V126b    V127b</p> <p>V128b    V129b    V130b    V131b    V132b</p> <p>V133c    V134c    V135c    V136c    V137c</p>				
<p><b>ポスター会場 3</b></p> <p>【P2. 星・惑星】(5)</p> <p>P222b    P223b    P224b    P225b    P226b</p> <p>【Q. 星間現象】(9)</p> <p>Q03c    Q16b    Q17b    Q18b    Q24b</p> <p>Q30c    Q34b    Q35b    Q36c</p> <p>【R. 銀河】(8)</p> <p>R04b    R05b    R06b    R07c    R12b</p> <p>R13b    R14b    R15b</p>					<p><b>ポスター会場 6</b></p> <p>【V2. 観測機器】(20)</p> <p>V205b    V206b    V207b    V209b    V210b</p> <p>V211b    V212c    V213b    V214b    V215b</p> <p>V218c    V226c    V227b    V228b    V229b</p> <p>V233b    V234b    V235b    V237b    V238b</p>				

ポスターセッション 3月14日(月) ~ 3月17日(木)

<p><b>ポスター会場 7</b></p> <p>【V2. 観測機器】(5)</p> <p>V239b V242b V243b V244b V248c</p> <p>【V3. 観測機器】(15)</p> <p>V302b V303b V304b V308b V309c</p> <p>V310b V311c V312c V313b V315b</p> <p>V316b V317b V318b V319b V320b</p> <p><b>ポスター会場 8</b></p> <p>【V3. 観測機器】(7)</p> <p>V321b V322b V323b V329b V330b</p> <p>V331c V334c</p> <p>【W1. 高密度星】(12)</p> <p>W108b W109c W110c W111b W112b</p> <p>W113b W114b W115b W116b W117b</p> <p>W118c W119b</p> <p><b>ポスター会場 9</b></p> <p>【W2. 高密度星】(6)</p> <p>W201b W205b W206b W207c W208b</p> <p>W209c</p> <p>【X. 銀河形成】(4)</p> <p>X09b X10b X11b X12b</p> <p>【Y. 天文教育・他】(10)</p> <p>Y09b Y10b Y11b Y12b Y13b</p> <p>Y14b Y15b Y16b Y17c Y18c</p>	<p><b>ポスター会場 10</b></p> <p>【Z1. TAO】(5)</p> <p>Z109b Z110b Z118b Z119b Z120b</p> <p>【Z3. 計算惑星】(10)</p> <p>Z303b Z304b Z310b Z311b Z312b</p> <p>Z315b Z316b Z322b Z323b Z324b</p> <p>【Z4. ニュートリノ】(5)</p> <p>Z405b Z406b Z407b Z410b Z411b</p> <p><b>ポスター会場 11</b></p> <p>【Z4. ニュートリノ】(3)</p> <p>Z412b Z413c Z414c</p> <p>【Z2. プラズマ宇宙】(17)</p> <p>Z203b Z204b Z205c Z206c Z207b</p> <p>Z208b Z209b Z211c Z212b Z213b</p> <p>Z214b Z215b Z216b Z220b Z221b</p> <p>Z222b Z223c</p> <p><b>ポスター会場 12</b></p> <p>【Z2. プラズマ宇宙】(19)</p> <p>Z224b Z225b Z226b Z227c Z228b</p> <p>Z229b Z230b Z231c Z232b Z233c</p> <p>Z234b Z238b Z239b Z240b Z241b</p> <p>Z242c Z243b Z244b Z245c</p>
--	--



## Z1. 東京大学アタカマ天文台のサイエンス戦略

3月16日(水) 午前・H会場		3月16日(水) 午後・H会場	
09:30	Z101r 東京大学アタカマ天文台 TAO6.5m 望遠鏡計画の概要・(24) 吉井讓 (東京大学)	13:30	Z111r 星間物質 / 星形成から TAO に期待すること・(24) 中村文隆 (国立天文台)
09:54	Z102a クェーサーで探る [Mg/Fe] 組成比の宇宙論的進化と星形成史・(12) 鮫島寛明 (京都産業大学)	13:54	Z112r TAO で紐解くダスト形成過程・(24) 野沢貴也 (国立天文台)
10:06	Z103a Super-MAGNUM project ~ Unprecedented Long-Term Infrared Monitoring of High-Redshift QSOs ~・(12) 峰崎岳夫 (東京大学)	14:18	Z113a TAO 中間赤外線観測を用いた双極状惑星状星雲ダストーラスの観測計画・(12) 浅野健太郎 (宇宙航空研究開発機構)
10:18	Z104r TAO による銀河形成研究の新展開・(24) 梅村雅之 (筑波大学)	14:30	Z114a 惑星系の多様性と起源の解明に向けた系外惑星トランジット観測の重要性・(12) 生駒大洋 (東京大学)
10:42	Z105a SWIMS-18 サーベイ : $1 < z < 5$ の銀河形成史を極める・(12) 児玉忠恭 (国立天文台)	14:42	Z115a K2/TESS による全天トランジットサーベイと TAO との連携・(12) 成田憲保 (アストロバイオロジーセンター)
10:54	Z106a 超新星追観測でせまる親星・爆発の統一的理解と TAO に期待される役割・(12) 前田啓一 (京都大学)	14:54	Z116a TAO/MIMIZUKU による小惑星の近赤外線分光サーベイ計画・(12) 臼井文彦 (東京大学)
11:06	Z107a ガンマ線バースト観測衛星 HiZ-GUNDAM と TAO 望遠鏡との連携による初期宇宙探査・(12) 米徳大輔 (金沢大学)	15:06	Z117a TAO とハレアカラ望遠鏡群による木星ならびに小天体の連続観測・(12) 坂野井健 (東北大学)
11:18	Z108a TAO による重力波放射源の光学対応天体の追跡探査・(12) 吉田道利 (広島大学)	15:18	Z118b Subaru/COMICS データで探る金星雲頂構造の特徴 -TAO への期待・(3) 佐藤隆雄 (宇宙航空研究開発機構)
11:30	Z109b 宇宙最遠クェーサーの探索 : Subaru/HSC から TAO/SWIMS へ・(3) 松岡良樹 (国立天文台)	15:21	Z119b TAO 中間赤外線観測によるミラ型変光星のダスト形成モニタリング観測・(3) 上塚貴史 (東京大学)
11:33	Z110b SWIMS-18 サーベイによる原始銀河団探査・(3) 利川潤 (国立天文台)	15:24	Z120b TAO 中間赤外線観測による dustiest evolved stars の観測計画・(3) 宮田隆志 (東京大学)

## Z2. プラズマ宇宙物理

3月14日(月)午後・G会場			
13:00	Z201r 実験室および宇宙プラズマにおける ジャイロ運動論・(30) 渡邊智彦(名古屋大学)	14:40	Z213b 磁気リコネクションによって発生するエ ネルギーフラックスとコロナ加熱・(3) 岩本直己(茨城大学)
13:30	Z202a 強磁場中におけるレーザープラズマ実 験とその応用・(20) 佐野孝好(大阪大学)	14:40	Z214b 非対称電流シートでの磁気リコネク ションの特徴・(3) 新田伸也(筑波技術大学)
13:50	Z203b 強磁場中でのレーザー・プラズマ相互 作用に関するPICシミュレーション・(3) 田中勇氣(大阪大学)	14:52	Z215b 系の回転が乱流スペクトルと乱流輸送 に与える影響・(3) 永岡賢一(核融合科学研究所)
13:50	Z204b 大型レーザーを用いた宇宙プラズマ物 理実験:無衝突ワイベル衝撃波生成・(3) 坂和洋一(大阪大学)	14:52	Z216b Flow induction by inhomogeneous turbulent helicity・(3) Nobumitsu Yokoi(Institute of Industrial Science, Univ. of Tokyo)
	Z205c 磁化プラズマ中を伝播する無衝突衝撃 波の生成実験:2015年度の実験結果 山崎了(青山学院大学)	3月15日(火)午前・G会場	
	Z206c 無衝突衝撃波の高強度レーザー実験 における協同トムソン散乱 松清修一(九州大学)	09:30	Z217r 中性子星磁気圏のリモートセンシ ング・(30) 寺澤敏夫(東京大学)
13:50	Z207b 磁化プラズマにおけるプラズマ乱流の マルチスケール性・(3) 前山伸也(名古屋大学)	10:00	Z218a 宇宙天体現象のプラソフシミュレーショ ン・(20) 藁島敬(海洋研究開発機構)
14:02	Z208b Self-consistent model of helicon discharge・(3) Shogo Isayama(Kyushu Univ.)	10:20	Z219a MHD乱流中の二次フェルミ加速の再 考・(20) 寺木悠人(理化学研究所)
14:02	Z209b 互いに異なる回転平衡状態にあるイオ ン流体と電子流体の重畳実験・(3) 比村治彦(京都工芸繊維大学)	10:40	Z220b 無衝突衝撃波における宇宙線駆動乱 流の数値シミュレーション・(3) 天野孝伸(東京大学)
14:10	Z210a 太陽内部熱対流・ダイナモ研究の最 近の話題と展望・(30) 堀田英之(千葉大学)	10:40	Z221b 高マッハ数衝撃波の3次元構造と電 子加速・(3) 松本洋介(千葉大学)
	Z211c イン=ヤン=ゾン格子による全球MHD シミュレーション 陰山聡(神戸大学)	10:40	Z222b 相対論的無衝突衝撃波の多次元長時 間PICシミュレーション・(3) 池谷直樹(千葉大学)
14:40	Z212b 対流に駆動された周期的な磁気リコネ クション現象:太陽黒点ライトブリッジ の観測・シミュレーション研究・(3) 鳥海森(国立天文台)		Z223c 相対論的衝撃波における航跡場加速 岩本昌倫(東京大学)

		3月15日(火) 午後・G会場	
10:52	Z224b PIC シミュレーションにおける高エネルギー粒子のエネルギーロス III・(3) 加藤恒彦(国立天文台)	13:30	Z235r 宇宙線の非ガウスの輸送と加速・(30) 羽田亨(九州大学)
10:52	Z225b 降着円盤中での乱流加速シミュレーション・(3) 木村成生(東北大学)	14:00	Z236a MHD Simulations using Athena++ with Mesh Refinement・(20) 富田賢吾(大阪大学)
10:52	Z226b 非等方放射の誘導コンプトン散乱・(3) 田中周太(東京大学)	14:20	Z237a ホール効果によって引き起こされる2種類の原始惑星系円盤の進化過程・(20) 塚本裕介(理化学研究所)
	Z227c 無衝突駆動磁気リコネクションにおける磁気島の役割について 堀内利得(核融合科学研究所)	14:40	Z238b Godunov Smoothed Particle Magnetohydrodynamics・(3) 岩崎一成(同志社大学)
11:04	Z228b 無衝突磁気リコネクションにおける電子軌道の全ラグランジュ解析・(3) 銭谷誠司(国立天文台)	14:40	Z239b 高次精度 MHD スキームを用いた磁気回転不安定性駆動乱流の計算機実験・(3) 平井研一郎(東北大学)
11:04	Z229b 宇宙空間プラズマ中における波動粒子相互作用の直接観測手法の検討・(3) 北原理弘(東北大学)	14:40	Z240b 磁気乱流由来の強電場による電子の加熱が原始惑星系円盤に与える影響・(3) 森昇志(東京工業大学/名古屋大学)
11:04	Z230b 斜め伝搬 MHD 波動による荷電粒子の拡散過程: クラスタ衛星観測とテスト粒子計算の比較・(3) 大塚史子(九州大学)	14:52	Z241b 磁気流体波動の散逸が駆動する巨大ガス惑星からの大気散逸現象について・(3) 田中佑希(名古屋大学)
	Z231c 惑星磁気圏におけるコーラス放射と相対論的高エネルギー電子との相互作用 加藤雄人(東北大学)		Z242c 磁気流体力学方程式に対する高次精度衝撃波捕獲差分スキームの開発 三好隆博(広島大学)
11:16	Z232b 誰も気づかなかった銀河と銀河団高温プラズマの相互作用・(3) 牧島一夫(理化学研究所)	14:52	Z243b 熱伝導を考慮した降着円盤状態遷移の磁気流体シミュレーション・(3) 谷田部紘希(千葉大学)
	Z233c 衝突銀河団 CIZA J1358.9-4750 における2つの衝撃波の観測的研究 加藤佑一(東京大学)	14:52	Z244b Formation Mechanism of Galactic Center Molecular Loops in Multi-Phase Clumpy Interstellar Medium・(3) Chih-Han Peng (Chiba Univ.)
11:16	Z234b 磁気流体キンク不安定性による銀河団中心低温成分の加熱・(3) 横山央明(東京大学)		Z245c 熱過程を考慮した銀河系中心部分子雲ループ形成シミュレーション 栗原理(茨城大学)
		15:04	Z246a 一般相対論的輻射磁気流体による超臨界降着円盤シミュレーション・(20) 高橋博之(国立天文台)

## Z3. 計算科学による惑星形成・進化・環境変動研究の新展開

3月15日(火) 午前・H会場		3月15日(火) 午後・H会場	
09:30	Z301r 「京」からポスト「京」へ・(20) 牧野淳一郎(理化学研究所)	13:30	Z313r 汎惑星気象・気候シミュレーションに向けて・(20) 林祥介(神戸大学)
09:50	Z302r 惑星形成シミュレーションの量的・質的向上に向けて・(20) 玄田英典(東京工業大学)	13:50	Z314r 原始惑星系円盤乱流と微惑星成長・(20) 石原卓(名古屋大学)
10:10	Z303b 大規模N体計算が切り拓く惑星形成研究の新時代・(3) 押野翔一(国立天文台)	14:10	Z315b 原始惑星系円盤中の局所構造におけるダストの合体成長と微惑星形成・(3) 瀧哲朗(東京工業大学)
10:10	Z304b FDPS(Framework for Developing Particle Simulator)を用いた惑星形成シミュレーションへの応用・(3) 岩澤全規(理化学研究所)	14:10	Z316b 乱流の「第一原理計算」による原始惑星系円盤中のダスト粒子衝突過程に対する鉛直重力の影響の解析・(3) 小林直樹(名古屋大学)
10:18	Z305a Kninjaを使った惑星集積計算・(12) 小南淳子(東京工業大学)	14:18	Z317a 火成活動、マントル対流と岩石惑星の進化・(12) 小河正基(東京大学)
10:30	Z306a 軸対称かつ面対称である円環形状天体の外部重力場の帯円環調和関数展開・(12) 福島登志夫(国立天文台)	14:30	Z318a マントル対流シミュレーション:地球型惑星内部の解明に向けて・(12) 亀山真典(愛媛大学)
10:42	Z307a ルジャンドル陪関数の計算手法の比較・(12) 榎本剛(京都大学)	14:42	Z319a スーパーアースのマントル対流シミュレーション・(12) 宮腰剛広(海洋研究開発機構)
10:54	Z308a タンデム惑星形成・(12) 戎崎俊一(理化学研究所)	14:54	Z320a 惑星系形成領域の有機物進化・(12) 相川祐理(筑波大学)
11:06	Z309a 地球形成の「ABELモデル」から導かれる今後の研究の展開・(12) 丸山茂徳(東京工業大学)	15:06	Z321a 宇宙空間でのアミノ酸生成反応機構についての理論的研究・(12) 庄司光男(筑波大学)
11:18	Z310b タンデム円盤における粒子成長・(3) 今枝佑輔(理化学研究所)	15:18	Z322b 高速回転する薄い球殻内の熱対流により引き起こされる表層縞状構造の消滅・(3) 竹広真一(京都大学)
11:18	Z311b FDPSを用いた巨大衝突の高解像度計算・(3) 細野七月(理化学研究所)	15:18	Z323b 暴走温室状態の発生条件に関する大気大循環モデル実験・(3) 石渡正樹(北海道大学)
11:18	Z312b 圧縮性流体用のメッシュフリー法の高次化・(3) 山本智子 (東京工業大学/理化学研究所)	15:18	Z324b 慣性変化法によるマントルの熱対流シミュレーション・(3) 竹山浩介(東京工業大学)

## Z4. 2020年代に向けたニュートリノ天文学の新展開

3月16日(水)午後・I会場		
13:30	Z401r ニュートリノ天文学の歴史と発展・(24) 中畑雅行(東京大学)	Z413c Super-K Gdプロジェクトによる超新星 背景ニュートリノの探索 小汐由介(岡山大学)
13:54	Z402a Supernova neutrinos and multi- messenger strategies・(18) Shunsaku Horiuchi (Virginia Polytechnic Institute & State Univ.)	Z414c 大型液体シンチレータ検出器による超 新星ニュートリノ研究の可能性 石徹白晃治(東北大学)
14:12	Z403a 超新星前兆ニュートリノの観測と大質 量星の最終進化・(12) 吉田敬(東京大学)	
14:24	Z404a 2次粒子の衝撃波加速による高エネル ギーニュートリノのフレーバー比の変 更・(12) 川中宣太(東京大学)	
14:36	Z405b 数値計算で明らかにする超新星ニュー トリノの系統的性質・(3) 中村航(早稲田大学)	
14:39	Z406b 重力崩壊型超新星爆発のボルツマン 方程式によるニュートリノ輻射輸送計 算・(3) 岩上わかかな(京都大学)	
14:42	Z407b 密度行列を用いた超新星ニュートリノ の物質振動の計算・(3) 藤井貴之(東京理科大学)	
14:45	Z408a ハイパーカミオカンデプロジェクト・(18) 塩澤真人(東京大学)	
15:03	Z409a IceCube's Role in Multi-messenger Astronomy・(18) Matthew Relich (Chiba Univ.)	
15:21	Z410b Super-Kamiokandeでの暗黒物質対消 滅ニュートリノの探索と将来・(3) 伊藤好孝(名古屋大学)	
15:24	Z411b ハイパーカミオカンデにおける天体 ニュートリノの観測・(3) 矢野孝臣(神戸大学)	
15:27	Z412b Neutrino Telescope Array (NTA)・(3) 佐々木真人(東京大学)	

## K. 超新星爆発

## L. 太陽系

3月14日(月)午後・H会場		3月14日(月)午後・F会場	
13:00	K01a マグネター駆動超新星の進化シミュレーション 増山美優(東京大学)	13:00	L01a X線天文衛星「すざく」による太陽極大付近での木星観測 江副祐一郎(首都大学東京)
13:12	K02a 降着流の非球対称・非定常性を取り入れた定在降着衝撃波不安定性の線型解析 高橋和也(早稲田大学)	13:12	L02a 外縁天体表面の水氷結晶度測定 寺居剛(国立天文台)
13:24	K03a 前兆ニュートリノの親星依存性 加藤ちなみ(早稲田大学)	13:24	L03a 「あかり」遠赤外線全天画像に基づく黄道光ダストバンド構造の抽出 大坪貴文(東京大学)
13:36	K04a ボルツマン方程式によるニュートリノ輻射流体計算コードを用いた重力崩壊型超新星爆発の二次元軸対称計算 岩上わか(京都大学)	13:36	L04b チェリヤビンスク火球の発光メカニズム 柳澤正久(電気通信大学)
13:48	K05a Ia型超新星 SN 2014dt の可視近赤外における中期・後期観測 川端美穂(広島大学)	13:36	L05b アジア太平洋地域小惑星観測ネットワーク APAON の構築 奥村真一郎(日本スペースガード協会)
14:00	K06a Ia型超新星の特異な減光則と星周ダストによる多重散乱の効果 長尾崇史(京都大学)	13:36	L06b ひさき衛星によるイオ周辺酸素原子130.4nm発光の時間変動解析 古賀亮一(東北大学)
14:12	K07a MeVガンマ線超広角撮像カメラによるIa型超新星の起源解明可能性 水村好貴(京都大学)	L07c 流星群の4次元予報計算 佐藤勲(日本大学)	
14:24	K08b 白色矮星内部の組成分布がIa型超新星の元素合成に与える影響 松尾直人(京都大学)	L08c ハレアカラ60cm望遠鏡による土星衛星エンケラドス・トラス酸素原子発光の観測 小野紘夢(東北大学)	
	K09c IIPおよびIII型超新星の観測と統計的調査に基づく包括的研究 福嶋大樹(大阪教育大学)	L09c 低活性彗星209P/LINEARの可視・近赤外偏光観測 黒田大介(国立天文台)	

## M. 太陽

3月15日(火)午後・A会場			
13:30	M01a 太陽 Lyman $\alpha$ 線偏光分光観測ロケット実験 CLASP での彩層散乱偏光観測 鹿野良平(国立天文台)	15:06	M13b 太陽ライマンアルファ線偏光分光観測ロケット CLASP 飛翔時の波長板モーターの性能 石川真之介(宇宙航空研究開発機構)
13:42	M02a CLASP/SJ で捉えた太陽彩層に偏在し高速で伝播する準周期的振動現象 久保雅仁(国立天文台)	15:06	M14b 飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡の補償光学装置及びイメージローターの偏光特性測定 阿南徹(京都大学)
13:54	M03a CLASP が捉えた太陽ライマン $\alpha$ 線偏光スペクトルの時間変化 成影典之(国立天文台)	15:06	M15b 太陽彩層偏光観測装置(Chro-Mag-Ro)の開発状況 萩野正興(国立天文台)
14:06	M04a 次期太陽観測衛星計画「Solar-C Mission」今後の進め方 渡邊鉄哉(国立天文台)		M16c 2015年10月19日~23日に発生したCクラスフレアの高速度2次元分光観測 當村一郎(大阪府大高専)
14:18	M05a Sunrise 気球実験による太陽彩層大気の高解像度・高感度偏光分光観測 勝川行雄(国立天文台)		M17c 6-14世紀の古文献オーロラ・黒点記録サーベイ 玉澤春史(京都大学)
14:30	M06a 2波長同時撮像による彩層微細構造の速度場観測 一本潔(京都大学)	3月16日(水)午前・A会場	
14:42	M07b Mg II triplet 線を用いた彩層増光現象の観測とエネルギーの見積もり 加納龍一(東京大学)	09:30	M18a コロナループ足下の遷移層におけるサブ秒角増光現象の観測的研究 木村泰久(東京大学)
14:42	M08b Parameter survey of mode coupling in a single sheared current sheet Shuoyang Wang (The University of Tokyo)	09:42	M19a コロナルレインと下層大気の相互作用とその時空間スケール 石川遼太郎(東北大学)
14:42	M09b SMART-T4 の観測による2015年8月24日のM5.6フレアのトリガと大規模コロナ磁場構造の変動について 永田伸一(京都大学)	09:54	M20a 時間距離図における二重リッジ問題について 神原永昌(総合研究大学院大学/国立天文台)
14:54	M10b 活動領域非線形フォースフリー磁場計算システムの開発 塩田大幸(名古屋大学)	10:06	M21a Hinode-IRIS 共同観測によるMHD波動のエネルギー散逸量の見積もり 加納龍一(東京大学)
14:54	M11b CALLISTO 受信機を用いた茨城大学太陽電波観測装置 鷺田英舞(茨城大学)	10:18	M22a アルフベン波に対する強い衝撃波の非線形効果 庄田宗人(東京大学)
14:54	M12b NICT 太陽電波望遠鏡-IV 久保勇樹(情報通信研究機構)	10:30	M23a 太陽彩層伝播アルフベン波のモード変換効率計算 河野隼也(東京大学)

10:42	M24a	プラズモイド型リコネクションにおける 圧縮性効果 (2) 銭谷誠司 (国立天文台)	15:06	M36a	低緯度で白色オーロラは見たのか 早川尚志 (京都大学)
10:54	M25a	太陽コロナにおけるダブルアーク不安 定性 石黒直行 (名古屋大学)	3月17日(木) 午前・A会場		
11:06	M26a	Thermal Evolution of Reconnection Outflows in Solar Eruptions Mark C. M. Cheung (国立天文台)	09:30	M37a	非線形フォースフリー磁場外挿による 4重極フレアの3次元磁場構造解析 川畑佑典 (東京大学)
11:18	M27a	太陽電波ゼブラパターンの統計的偏 波特性 金田和鷹 (東北大学)	09:42	M38a	Xクラスフレア前後でのコロナ磁場の ねじれ変化とエネルギー解放 清水敏文 (宇宙航空研究開発機構)
3月16日(水) 午後・A会場			09:54	M39a	Analysis for a flare trigger with IRIS, SDO, and Hinode 伴場由美 (名古屋大学 / 宇宙航空 研究開発機構)
13:30	M28a	CME 時に観測された EUV 波による プロミネンス振動 花岡庸一郎 (国立天文台)	10:06	M40a	Statistical Analysis on Flaring Active Regions of the Sun 鳥海森 (国立天文台)
13:42	M29a	強密度成層が誘起するダイナモ生成 磁束の浮上と活動領域の自発的形成 政田洋平 (愛知教育大学)	10:18	M41a	2014年12月20日 X1.8 フレアの解析 結果について 吉田正樹 (総合研究大学院大学)
13:54	M30a	磁気要素の自動追跡モジュールを用 いた太陽黒点の崩壊過程の解析 加藤翔大 (名古屋大学)	10:30	M42a	Mクラスフレアに伴う噴出現象と dimming 大山真満 (滋賀大学)
14:06	M31a	大規模画像データを用いた太陽コロナ ホール生成・消滅過程の研究 加納大空 (名古屋大学)	10:42	M43a	京都大学飛騨天文台 SMART/FISCH による2015年5月6日(日本時間) の白色光フレアの観測 II 石井貴子 (京都大学)
14:18	M32a	St. Patrick's event の数値シミュレ ーション: 高速太陽風について 田光江 (情報通信研究機構)	10:54	M44a	太陽磁場観測による機械学習を用 いた太陽フレア予報モデル開発 西塚直人 (情報通信研究機構)
14:30	M33a	EIS 観測における迷光寄与の評価と太 陽活動長期変動に伴う極域構造の変化 藤下祐人 (名古屋大学)			
14:42	M34a	ひので / XRT で検出された高エネル ギー粒子の長期的な振る舞い 山田正矩 (茨城大学)			
14:54	M35a	歴史的文献にみる17~20世紀の中 国のオーロラの記録 河村聡人 (京都大学)			



## N. 恒星

3月14日(月)午後・E会場		3月15日(火)午前・E会場	
13:00	N01a 巨大質量星の痕跡を示す可能性のある金属欠乏星の化学組成 II 青木和光 (国立天文台)	09:30	N11a 星震学と分光観測で明らかになった太陽型星の内部自転 高田将郎 (東京大学)
13:12	N02a SDSS/SEGUE で見つかった超金属欠乏星の詳細組成解析 松野允郁 (総合研究大学院大学 / 国立天文台)	09:42	N12a 振動を考慮に入れたアルゴル系における主極小時の光度曲線形状変化 鳴沢真也 (兵庫県立大学)
13:24	N03a SAGA データベースを用いた銀河の化学進化の検証 須田拓馬 (東京大学)	09:54	N13a AGB 星周縁部でのダストのドリフト運動と形成量との関係性 保田悠紀 (北海道大学)
13:36	N04a 角運動量輸送を考慮した恒星合体による SN1987A の親星モデル 漆畑貴樹 (東京大学)	10:06	N14b 晩期型星の近赤外線長期間モニター観測で発見した変光周期 1000 日を超える天体の観測的特性 山下智志 (鹿児島大学)
13:48	N05a 連星中性子星合体による r プロセス元素の化学進化 小宮悠 (東京大学)	10:06	N15b VERA による長周期変光星の VLBI 位置天文観測 中川亜紀治 (鹿児島大学)
14:00	N06a 高速自転 B 型星の酸素組成決定 竹田洋一 (国立天文台)	10:06	N16b 星周エンベロープにおける速度変動の検出法: ガウス基底関数フィッティングに基づくスペクトル解析 須藤広志 (岐阜大学)
14:12	N07a 太陽型星における巨大黒点の発生頻度とスーパーフレアとの関係 前原裕之 (国立天文台)	10:18	N17a 近赤外線高分散分光による銀河系中心セフィイドの金属量の導出 福江慧 (東京大学)
14:24	N08a 高い磁気活動を示す近傍の太陽型星の高分散分光観測 野津湧太 (京都大学)	10:30	N18b 近赤外線高分散分光器 WINERED: 大気吸収線の補正 鮫島寛明 (京都産業大学)
14:36	N09a スーパーフレア天体の X 線調査 矢吹健 (中央大学)		
14:48	N10a フレア星 EV Lac の H $\alpha$ 線連続分光観測 本田敏志 (兵庫県立大学)		

## P1. 星・惑星形成

3月14日(月)午後・B会場			
13:00	P101a Centrifugal Barrier of Infalling-Rotating Envelope around the Class I Protostar IRAS 04365+2535 坂井南美(理化学研究所)	15:00	P112b Stable and Unstable Regimes of Mass Accretion onto RW Aur A Michihiro Takami (Institute of Astronomy and Astrophysics, Academia Sinica)
13:12	P102a IRAS 16293-2422におけるエンベロープの速度構造解析(2) 大屋瑤子(東京大学)	15:00	P113b IC1848における激変する若い変光天体の調査 蓮岡克哉(岡山理科大学)
	P103c Searching for the centrifugal barrier of the infalling-rotating envelope in two hot corinos with ALMA Ana López Sepulcre (The Univ. of Tokyo)	15:00	P114b HD141569 Aに付随する内円盤状成分の発見 小西美穂子(大阪大学)
13:24	P104a 星形成領域 L1527におけるCCHおよびCCDの高分解能観測 吉田健人(東京大学)		P115c 円盤状構造の一部に塊が含まれる場合の直線偏光計算 福江翼(神戸市外国語大学)
13:36	P105a 原始星 L1527 IRS 周囲のダストとガスの構造 麻生有佑(東京大学)	3月15日(火)午前・B会場	
13:48	P106a ALMA Cycle 1による原始星 L1448-mmの観測 黒瀬一平(東京大学)	09:30	P116a 磁場で支えられた分子雲コアの発見 中村文隆(国立天文台)
14:00	P107a OH 18 cm 線の吸収線で探る HCL2 領域における構造形成 海老澤勇治(東京大学)	09:42	P117a TMC-1におけるCCS分子輝線のゼーマン効果計測検証 亀野誠二(Joint ALMA Observatory)
14:12	P108a 連星降着モデルで探る周連星円盤の構造II 松本倫明(法政大学)	09:54	P118b ゼーマン効果検出を念頭においたTMC-1周辺のCCS/HC <sub>3</sub> NのOTF観測 土橋一仁(東京学芸大学)
14:24	P109a おうし座分子雲に属する原始惑星系円盤の散逸過程 高木悠平(兵庫県立大学)	09:54	P119b 星形成レガシープロジェクト: Aquila Rift, Orion A, M17 領域のCO分子雲カタログの作成 中村文隆(国立天文台)
14:36	P110a 原始惑星系円盤における圧縮性乱流場中の粒子運動 古谷眸(筑波大学)	09:54	P120b トラペジウムクラスターの赤外線長期撮像観測 伊藤綾香(法政大学)
14:48	P111a Long-Term Monitoring Observations of Active Pre-main Sequence Stars: Where Do Jets Launch? Michihiro Takami (Institute of Astronomy and Astrophysics, Academia Sinica)		P121c 磁場に貫かれたフィラメント状分子雲の自己重力不安定性 工藤哲洋(長崎大学)
		10:06	P122a フィラメント状ガス雲分裂により形成されたコアの形状進化 杉村和幸(東北大学)

10:18	P123a オリオン座 A 巨大分子雲中のコアの角運動量 立松健一 (国立天文台)	14:18	P135a ALMA を用いた大マゼラン雲における分子雲高分解能観測 1: N159E にある3つのフィラメント分子雲の衝突が誘発した大質量星形成現場 西合一矢 (大阪府立大学)
10:30	P124a Universality of relation between SFR and mass of dense gas Shimajiri Yoshito (CEA/Saclay)	14:30	P136a ALMA を用いた大マゼラン雲における分子雲高分解能観測 2: 銀河系内天体との比較 徳田一起 (大阪府立大学)
10:42	P125a 大質量星からのアウトフロー 松下祐子 (九州大学)	14:42	P137a 大マゼラン雲における孤立した大質量原始星に付随する分子ガス観測 (2) 原田遼平 (大阪府立大学)
10:54	P126a 超大質量原始星の降着進化に伴い発生するアウトフローについて 仲内大翼 (東北大学)	14:54	P138b ALMA を用いた大マゼラン雲における分子雲高分解能観測 3: GMC の進化 I 森岡祐貴 (大阪府立大学)
11:06	P127a 一様回転する超大質量星の重力崩壊 打田晴輝 (京都大学)	14:54	P139b 銀河中心付近 G0.02- 0.07 に付随する分子雲のホットコア 宮脇亮介 (桜美林大学)
11:18	P128b 宇宙初期の星形成と磁場の効果 樋口公紀 (九州大学)		P140c Spectral-line survey toward an outflow-shocked region, OMC2-FIR 4 Shimajiri Yoshito (CEA/Saclay)
11:18	P129b 大質量原始星候補天体周囲の階層的降着構造に対する $N_2H^+$ 輝線観測 元木業人 (国立天文台)	14:54	P141b 日立 32-m 電波望遠鏡を用いた大規模な 6.7 GHz メタノール・メーザーモニターサーベイ: 短周期天体探査 杉山孝一郎 (茨城大学)
11:18	P130b Probing the mass accretion by the surrounding material in Taurus B211 filament Shimajiri Yoshito (CEA/Saclay)	15:06	P142a G014.23-00.50 に付随する 6.7 GHz メタノールメーザーの高頻度モニター 永瀬桂 (茨城大学)
3月15日(火) 午後・B会場			P143c G33.641-0.228 のメタノールメーザーが示す1日以下の時間変動 藤沢健太 (山口大学)
13:30	P131a 星団を形成するクランプの力学的進化 下井倉ともみ (東京学芸大学)		
13:42	P132a クラスタを形成するクランプの回転+インフォール運動のモデル化 土橋一仁 (東京学芸大学)		
13:54	P133a ALMA cycle 1 におけるオリオン KL 電波源 I の高励起水分子輝線観測 廣田朋也 (国立天文台)		
14:06	P134a High mass star formation in M16's region explained by cloud-cloud collision Costes Jean (Nagoya Univ.)		

## P2. 星・惑星形成

3月15日(火) 午後・C会場		3月16日(水) 午前・C会場	
13:30	P201a 目視によるケプラーデータ中の超長周期トランジット惑星の発見 上原翔(首都大学東京)	09:30	P214a MOA-IIによる系外惑星探査:2015年の結果 平尾優樹(大阪大学)
13:42	P202a 重力減光を用いた高温星まわりのウォームジュピターのスピン軌道角測定 増田賢人(東京大学)	09:42	P215a ザララップ効果が見える重力マイクロレンズイベントへの新たな制限 越本直季(大阪大学)
13:54	P203a ケプラー測光データを用いた長周期惑星のリング探査 逢澤正嵩(東京大学)	09:54	P216a 海王星に似た惑星:MOA-2013-BLG-605Lbの公転軌道 住貴宏(大阪大学)
14:06	P204a FM Exoplanets:反射光光度曲線の周期解析 河原創(東京大学)	10:06	P217a 低質量M型矮星周りを回るスーパーアース:MOA-2012-BLG-505Lb 永金昌幸(大阪大学)
14:18	P205a High Contrast and High Dispersion Spectroscopy Capability of IRCS (R ~ 20,000, K-band) +AO188 in Subaru Telescope for Characterizing Nearby Directly Imaged Exoplanets Stevanus Kristianto Nugroho (Tohoku Univ.)	10:18	P218a 系外惑星系探索用多重レンズ解析法 阿部文雄(名古屋大学)
14:30	P206a 視線速度変動の見られる巨星に対する吸収線輪郭解析の適用 宝田拓也(東京工業大学)	10:30	P219a ALMAによる低質量原始星天体B335の化学組成の研究 今井宗明(東京大学)
14:42	P207a ハビタブルゾーンの評価に際する温室効果を考慮した実効的輻射流束 釜谷秀幸(防衛大学校)	10:42	P220a TW Hyaまわりの原始惑星系円盤のALMA観測 野村英子(東京工業大学)
14:54	P208a 主系列期における永続的な生命発生の可能性を考慮したハビタブルゾーンへのUVと金属量の効果 大石碧(防衛大学校)	10:54	P221a 原始惑星系円盤の化学反応計算と、赤外線分光観測によるスノーライン・C/O比分布の検出可能性 野津翔太(京都大学)
15:06	P209b 3重食連星系KIC 6543674の測光データによる構造決定 増田賢人(東京大学)	11:06	P222b HL Tau周囲の原始惑星系円盤の多波長輻射平衡モデルII 持田一貴(千葉大学)
15:06	P210b SPART電波望遠鏡による太陽系地球型惑星大気の一酸化炭素の監視 原口大輝(大阪府立大学)	11:06	P223b JVL A 7mm高分解能観測によるV1247 Oriの非対称な原始惑星系円盤 日下部展彦(自然科学研究機構)
	P211c Spitzer Studies of K2 Exoplanet Candidates John Livingston (Univ. of Tokyo)	11:06	P224b ロスビー波不安定性の物理メカニズム 小野智弘(京都大学)
	P212c ハレアカラT60望遠鏡のDIPOL-2を用いた系外惑星の観測と解析 前田東暁(東北大学)	11:18	P225b ダスト層の重力不安定によって形成される微惑星のサイズと円盤モデル 長谷川幸彦(国立天文台)
	P213c 様々な主星の輻射環境における光合成の吸収効率 小松勇(筑波大学)	11:18	P226b 原始惑星系円盤の消失:円盤風と光蒸発の競合 國友正信(名古屋大学)

3月16日(水) 午後・C会場	3月17日(木) 午前・C会場
13:30 P227a おうし座 HL 星における惑星系形成 秋山永治 (国立天文台)	09:30 P238a SPICA で探るデブリ円盤の進化と太陽系の起源 石原大助 (名古屋大学)
13:42 P228a 永年重力不安定性による HL Tau の多重リング構造形成 高橋実道 (東北大学)	09:42 P239a 赤外線天文衛星「あかり」を用いた遠赤外線全天観測によるデブリ円盤と中心星の年齢との関係の研究 小島拓也 (東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)
13:54 P229a 原始惑星系円盤でのダスト焼結と多重リング形成: HL Tau 円盤への応用 奥住聡 (東京工業大学)	09:54 P240a 惑星間塵における小惑星・彗星起源ダストの存在比 植田高啓 (東京工業大学)
14:06 P230a Viscous Instability Triggered by Layered Accretion in Protoplanetary Disks Yasuhiro Hasegawa (JPL/Caltech)	10:06 P241a 原始太陽系星雲での同位体均質化イベントの可能性 竹石陽 (東京工業大学)
14:18 P231a 原始惑星系円盤でのガスとダストの相互作用による不安定性の数値シミュレーション 大西勇武 (九州大学)	10:18 P242a 高温の周惑星円盤における衛星移動と平均運動共鳴への捕獲について 藤井悠里 (ニールスボーア研究所)
14:30 P232a 原始惑星系円盤における電子加熱による磁気乱流の抑制: 磁気流体数値計算による検証 森昇志 (東京工業大学 / 名古屋大学)	10:30 P243a 集積期の原始巨大ガス惑星からの水素輝線放射 LkCa 15b への示唆 青山雄彦 (東京大学)
14:42 P233a 原始惑星系円盤における高空隙率ダストの観測予測 田崎亮 (京都大学)	10:42 P244a 巨大ガス惑星内部の二重拡散対流が熱進化に及ぼす影響の再評価 黒川宏之 (東京工業大学)
14:54 P234a 乱流円盤中での微惑星から惑星への成長 - 暴走成長を開始する天体サイズ - 小林浩 (名古屋大学)	10:54 P245a 大気中の氷成分凝縮がもたらす巨大氷惑星の熱進化時間の短縮効果 黒崎健二 (東京大学)
15:06 P235a 弾性体ゴドノフ SPH 法と岩石のモデルを用いた微惑星衝突の数値計算 杉浦圭祐 (名古屋大学)	11:06 P246a ホットネプチューン GJ 436b における大気散逸現象 田中佑希 (名古屋大学)
15:18 P236a 巨大衝突によって形成される惑星系の軌道構造 小久保英一郎 (国立天文台)	11:18 P247a 系外惑星の雲モデル開発: 地球と木星の雲観測との比較 大野和正 (東京工業大学)
15:30 P237a 系外惑星系の軌道構造の統計的性質 磯江麻里 (東京大学 / 国立天文台)	11:30 P248a 地球型惑星の熔融時間と放射スペクトルの時間進化 濱野景子 (東京大学)

## Q. 星間現象

3月15日(火) 午前・I会場		3月15日(火) 午後・I会場	
09:30	Q01a 銀河リッジ X 線放射の中性鉄輝線における宇宙線の寄与 信川久実子 (京都大学)	13:30	Q12a 分子雲衝突によるコア形成と HII 領域の進化 島和宏 (北海道大学)
09:42	Q02a 銀河中心拡散 X 線放射における局所的な Ni 組成量の過剰 信川正順 (奈良教育大学)	13:42	Q13a FUGIN: W51 領域における CO multi-line 解析 藤田真司 (筑波大学)
	Q03c MAXI/SSC による銀河中心周辺の拡散 X 線放射の観測 中平聡志 (宇宙航空研究開発機構)	13:54	Q14a 巨大星団 RCW38 における O 型星のフィードバックと分子雲との相互作用 鳥居和史 (名古屋大学)
09:54	Q04a Investigation of the effect of magnetic diffusion on the Fermi Bubbles by 3D MHD simulation Sabrina Coudry (Astronomical Institute, Tohoku Univ.)	14:06	Q15a NANTEN2 望遠鏡による CO 2-1 の観測成果 大浜晶生 (名古屋大学)
10:06	Q05a ジェットによる非一様な星間空間へのフィードバックの磁気流体シミュレーション 朝比奈雄太 (国立天文台)	14:18	Q16b NANTEN2 望遠鏡によるコンパクト HII 領域の CO 輝線観測 河野樹人 (名古屋大学)
10:18	Q06a シンクロトロン放射による輻射反作用を考慮した相対論的衝撃波中での粒子加速シミュレーション 野上雅弘 (青山学院大学)	14:18	Q17b フィラメント状分子雲 Lupus I における分子ガスの性質と磁場構造 望月沙也可 (名古屋大学)
10:30	Q07a 非等方な密度揺らぎを持つプラズマ中でのワイベル不安定性の Particle In Cell シミュレーション 富田沙羅 (青山学院大学)	14:18	Q18b 銀河系中心領域分子雲の物理状態推定 田中邦彦 (慶應義塾大学)
10:42	Q08a 部分電離プラズマ中の無衝突垂直衝撃波での粒子加速機構 大平豊 (青山学院大学)	14:30	Q19a 銀河系中心 50km/s 分子雲のフィラメント状構造 上原顕太 (東京大学)
10:54	Q09a 特異な構造を持つ Mixed-Morphology 型超新星残骸 G166.0+4.3 のすざく衛星による観測 松村英晃 (京都大学)	14:42	Q20a 銀河中心領域の磁気活動による高速度分散領域形成メカニズムの解明 柿内健佑 (名古屋大学)
11:06	Q10a Cygnus Loop 衝撃波ブリカーサーの H $\alpha$ 高分散分光・空間分離観測 勝田哲 (宇宙航空研究開発機構)	14:54	Q21a ミラ型変光星を用いた銀河系中心の磁場構造の解析 善光哲哉 (京都大学)
11:18	Q11a CO, HCO <sup>+</sup> 回転遷移輝線による SNR W44 超高速成分の観測的研究 山田真也 (慶應義塾大学)	15:06	Q22a 全天にわたる中間速度 HI 雲の解析 I 古賀真沙子 (名古屋大学)
		15:18	Q23a Helically moving HI cloud found in the outer Galactic disk 中西裕之 (鹿児島大学)
		15:30	Q24b 中性水素ガス構造と星間磁場の強い相関の物理的理由 井上剛志 (国立天文台)

3月16日(水) 午前・I会場		
09:30	Q25a RadioAstron 観測で検出された宇宙で最も輝度温度の高い水メーザー 今井裕 (鹿児島大学)	Q36c 韓国 STSAT-3 衛星搭載の赤外線カメラ MIRIS を用いた銀河拡散光の観測 大西陽介 (東京工業大学)
09:42	Q26a AKARI による遠赤外高詳細全天ダストマップ 土井靖生 (東京大学)	
09:54	Q27a AKARI FIS 全天地図による SDSS 銀河のスタック解析 岡部泰三 (東京大学)	
10:06	Q28a The origin of the 22 $\mu$ m broad feature and its association with the molecular clouds of the Great Nebula in Carina. Ronin Wu (Department of Astronomy, the Univ. of Tokyo)	
10:18	Q29a An Investigation of Possible Electric Dipole Emission from Interstellar PAHs and/or Dust Grains, using AKARI Aaron Bell (Univ. of Tokyo)	
	Q30c イオン化したフラレーン (C60+) を起源に持つ DIB のモニター分光観測 三澤透 (信州大学)	
10:30	Q31a チャープ・フーリエ変換型マイクロ波分光計の開発 小林かおり (富山大学)	
10:42	Q32a マイクロ波分光によるギ酸メチル同位体 (HCOO <sup>13</sup> CH <sub>3</sub> ) のねじれ振動第二励起状態のマイクロ波分光 桑原拓郎 (富山大学)	
10:54	Q33a 低質量星形成領域 L1527 における炭素鎖分子 HC <sub>3</sub> N の同位体比測定 荒木光典 (東京理科大学)	
11:06	Q34b <sup>13</sup> C Isotopic Fractionation of HC <sub>3</sub> N toward L1527 Kotomi Taniguchi (総合研究大学院大学 / 国立天文台)	
11:06	Q35b 遠赤外線観測で探る星間ガスの加熱効率 中川貴雄 (宇宙航空研究開発機構)	

## R. 銀河

3月14日(月)午後・A会場			
13:00	R01a	銀河系位置天文観測に準拠した密度波理論の検証 坂井伸行(国立天文台)	14:36 R13b 近傍銀河 NGC1808 の ALMA による $^{12}\text{CO}(3-2)$ 、連続波観測 富安悠人(筑波大学)
13:12	R02a	Evaluation of RM CLEAN with reduced chi-square in analysis of cosmic magnetic field 宮下恭光(熊本大学)	14:36 R14b 矮小銀河 NGC1569 におけるアウトフロー領域からの赤外線放射:ダスト特性の空間分布 鈴木仁研(宇宙航空研究開発機構)
13:24	R03a	近傍宇宙における銀河の光度関数とハッブル定数 上村健斗(東京学芸大学)	14:48 R15b NGC4388 と M86 周辺領域の広がった X 線放射の分布と起源 菱右京(金沢大学)
13:36	R04b	SPLASH で検出された天の川銀河内 OH メーザー天体の統計的特徴 品野晃介(鹿児島大学)	14:48 R16b 水素電離輝線を用いた近傍 LIRG におけるダスト減光の観測的研究 小早川大(東京大学)
13:36	R05b	銀河ガス円盤数値実験による観測的可視化 II 天の川銀河 町田真美(九州大学)	R17c 「すざく」による渦巻銀河 M31 中心部のアバundance比と星/ガスの分布 長谷川俊介(東京理科大学)
13:36	R06b	重力マイクロレンズ法による MOA-II 望遠鏡を用いた低質量 MACHOs の探索 及川仁士(名古屋大学)	R18c 銀河の性質と分子ガスの中心集中度の関係;統計的研究 隈井泰樹(熊本学園大学)
	R07c	SCF 法による 2 つの球状銀河の合体シミュレーション 穂積俊輔(滋賀大学)	R19c 棒渦巻き銀河 M100 の ALMA データの解析 I 松田有一(国立天文台)
13:48	R08a	分子雲衝突を伴う巨大分子雲質量関数の進化 小林将人(名古屋大学)	R20c 棒渦巻き銀河 M100 の ALMA データの解析 II 松田有一(国立天文台)
14:00	R09a	NRO レガシープロジェクト COMING(6): 近傍矮小銀河 NGC2976 における分子ガス分布と星形成 畠山拓也(筑波大学)	
14:12	R10a	棒渦巻銀河 M83 における GMC スケールの CS と $\text{CH}_3\text{OH}$ 分布 渡邊祥正(東京大学)	
14:24	R11a	低重元素量の矮小銀河における CO 輝線の観測 西村優里(東京大学)	
14:36	R12b	近傍銀河における、空間分解した $\text{CO}(3-2)$ 輝線光度-赤外線光度の関係 村岡和幸(大阪府立大学)	



3月15日(火) 午前・A会場		
09:30	R21a Interstellar chemistry in extreme starburst environment 原田ななせ (台湾中央研究院)	R31c 銀河中心における連 SMBH まわりの星の速度構造 II 船渡陽子 (東京大学)
09:42	R22a ALMA でみた 10 pc スケールでの 1 型低光度活動銀河核 NGC1097 河野孝太郎 (東京大学)	R32c ALMA による NGC1566 の銀河中心の観測とガスの運動 井口聖 (国立天文台)
09:54	R23a Tidally-Disrupted Molecular Cloud Falling to the Galactic Center Masato Tsuboi (宇宙航空研究開発機構)	
10:06	R24a 最近傍スターバースト銀河 NGC5253 における超星団の形成 II: 高速度幅コンパクト分子雲の発見 三浦理絵 (国立天文台)	
10:18	R25a Feeding and feedback of star formation in NGC 1808 revealed with ALMA Dragan Salak (Kwansei Gakuin Univ.)	
10:30	R26a H <sub>2</sub> O ice の吸収から探る ULIRG 内部における星形成領域の構造 道井亮介 (東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)	
10:42	R27a HCG92 (Stephan's Quintet) の「あかり」衛星近 - 中間赤外線観測 池内綾人 (東京大学)	
10:54	R28a ALMA observations of the dense/shocked gas in the nuclear regions of the Antennae galaxies 植田準子 (Harvard-Smithsonian Center for Astrophysics)	
11:06	R29a ASTE を用いた衝突の初期段階の銀河ペアのサーベイ観測 道山知成 (総合研究大学院大学 / 国立天文台)	
11:18	R30a 星形成衝突銀河 NGC 1614 における CO 分子ガスの状態 安藤未彩希 (総合研究大学院大学 / 国立天文台)	

## S. 活動銀河核

3月14日(月) 午後・F会場			
13:48	S01b 銀河系核周円盤とM-0.13-0.08との物理的接触の発見 竹川俊也(慶應義塾大学)	09:54	S12a 多周波VLBI観測によるAGN NGC 4261 ジェット形状探査 中原聡美(総合研究大学院大学/宇宙航空研究開発機構)
13:48	S02b 活動銀河核3C84の近傍10pcのガスの状態の推定 藤田裕(大阪大学)	10:06	S13a 電波銀河M87におけるジェットと星間物質との相互作用II 大曾根聡子(元産業技術総合研究所)
13:48	S03b Extremely high-velocity inflow of SiO onto the radio galaxy NGC 1052 亀野誠二(Joint ALMA Observatory)	10:18	S14a Rayleigh-Taylor不安定性が相対論的ジェットで成長する条件 松本仁(理化学研究所)
14:00	S04a 活動銀河核の活動性と銀河核ガス円盤の幾何学構造の関係 川勝望(呉工業高等専門学校)	10:30	S15a 「すざく」による深く隠された活動銀河核の広帯域X線観測 谷本敦(京都大学)
14:12	S05a ブラックホール降着円盤周辺での層雲の安定性 仲井琢哉(大阪教育大学)	10:42	S16a 狭輝線1型セーフアート銀河MCG-6-30-15の0.2-78 keVにおける広帯域X線スペクトル変動の解釈 楠絵莉子(東京大学/宇宙航空研究開発機構)
	S06c Wind-ADAFモデルにおけるシンクロトロン放射スペクトルの特徴 早川賢(大阪教育大学)	10:54	S17a コンプトンショルダーにおけるX線散乱体のパラメータ依存性 米田浩基(宇宙航空研究開発機構/東京大学)
14:24	S07a NuSTARによる広帯域X線スペクトルで探る1H0707-495のアウトフローの幾何学構造 都丸亮太(宇宙航空研究開発機構)	11:06	S18a Witnessing the final stage of AGN in Arp 187 市川幸平(国立天文台)
14:36	S08a AGN Outflowの多視線観測によるKinetic Luminosityの不定性評価 三澤透(信州大学)	11:18	S19a 「あかり」遠赤外線全天点源カタログ改訂版の公開 山村一誠(宇宙航空研究開発機構)
14:48	S09a Ultra Fast Outflowのラインフォース駆動型円盤風モデル:質量・エネルギー放出率とAGN光度依存性 野村真理子(筑波大学)	11:30	S20a 「あかり」遠赤外線全天サーベイから探るクェーサーの星形成史 高橋百合野(名古屋大学)
3月15日(火) 午前・F会場			S21c HSCすばる戦略枠観測サーベイにおけるSED fittingを用いた高赤方偏移クェーサー選択法の開発 尾上匡房(総合研究大学院大学)
09:30	S10a フェルミガンマ線宇宙望遠鏡が捉えたブレーザー3C279からの数分スケールで変動する100MeVガンマ線放射 林田将明(東京大学)		
09:42	S11a 日韓合同VLBI観測網KaVAによるM87ジェット加速領域の高頻度・高解像度モニター 秦和弘(国立天文台)		

## T. 銀河団

3月14日(月) 午後・I会場			
13:00	T01a	銀河団ガスにおける乱流による粒子加速と加熱 清水崇文(電気通信大学/首都大学東京)	14:48 T12b 銀河団 RXC J0751.3+1730 の物理量空間分布、及び周囲の銀河団との相互作用(2) 小林洋明(名古屋大学)
13:12	T02a	銀河団の電波レリックの起源としての乱流加速 藤田裕(大阪大学)	15:00 T13b 電波銀河 NGC6166 の偏波観測による冷却コア銀河団 A2199 の磁場推定 高橋律裕(山形大学)
13:24	T03a	すざく衛星による RXC J1053.7+5453 の電波レリック周辺領域の解析 板花まどか(山形大学)	T14c 銀河団方向の X 線源の数と銀河団観測への影響 栗山翼(東京理科大学)
13:36	T04a	近傍衝突銀河群システム NGC 7618 & UGC 12491 の観測的研究 三石郁之(名古屋大学)	
13:48	T05a	「すざく」で観測した銀河団・銀河群のガス質量と鉄質量 - 銀河光度比 佐々木亨(東京理科大学)	
14:00	T06a	Abell 3391 と Abell 3395 を含む大規模構造フィラメントの X 線観測 菅原悠宇紀(山形大学)	
14:12	T07a	SKA 時代の FRB を用いた銀河間物質の探査 赤堀卓也(鹿児島大学)	
14:24	T08a	すざく衛星による Abell 2744 銀河団周辺のミッシングバリオン探査 服部詩穂(奈良女子大学)	
14:36	T09a	「ASTRO-H」SXS による観測シミュレーションを用いた銀河団中心部における共鳴散乱の影響の評価 古川愛生(東京理科大学)	
14:48	T10b	XMM-Newton 衛星 RGS の観測データを用いた銀河団高温ガス低温成分の温度、組成、運動の調査 正村陸(大阪大学)	
14:48	T11b	XMM-Newton RGS の観測によるペルセウス銀河団コアおよび M87 の低温成分の再検証 五十嵐宣孝(大阪大学)	

## U. 宇宙論

3月16日(水) 午前・B会場		3月16日(水) 午後・B会場	
09:30	U01a 宇宙膨張論の検証XX VI 今一度基本に立ち帰ろう 阿武靖彦	11:42	U13b 宇宙マイクロ波背景放射の量子状態 新田大輔 (名古屋大学)
09:42	U02a 宇宙もスピンしている 新村公剛 (新村公剛公認会計士事務所)	11:42	U14b 超巨大ブラックホール(SMBH)と銀河の関係 中道晶香 (京都産業大学)
09:54	U03a マイナスの宇宙で電子と陽子はどのようにできたか。 小堀しづ	11:42	U15b マイナスの宇宙のエネルギー。ビッグバンから始まった宇宙を「プラスの宇宙」とし、ビッグバンに至る宇宙を「マイナスの宇宙」とする。進む方向が逆であるからです。 小堀しづ
10:06	U04a 非線形領域でニュートリノを流体として取り扱うことについての考察 大石直矢 (京都大学)		U16c マイナスの宇宙からプラスの宇宙に成る折り返し点はどこか。ビッグバンを起こしたものは何か。 小堀しづ
10:18	U05a Cosmic stringによる初期磁場生成 堀口晃一郎 (名古屋大学)		
10:30	U06a 宇宙マイクロ波背景放射偏光観測実験 POLARBEARによるB-mode 偏光観測の最新結果 茅根裕司 (カリフォルニア大学バークレー校)	13:30	U17a Post-collapse perturbation theory in 1D cosmology 樽家篤史 (京都大学)
10:42	U07a 宇宙初期の超新星残骸がつくる宇宙マイクロ波背景放射の円偏光 田代寛之 (名古屋大学)	13:42	U18a ダークエネルギーの揺らぎがボイド形成に与える影響 遠藤隆夫 (名古屋大学)
10:54	U08a Constraining light gravitino mass with 21 cm line observation 大山祥彦 (東京大学)	13:54	U19a 有限体積銀河サーベイの宇宙論統計量に対する大スケールゆらぎの影響 - Super Sample Effect 高田昌広 (東京大学)
11:06	U09a 高次の統計量を用いた宇宙再電離期におけるパラメータ推定 久保田賢志 (熊本大学)	14:06	U20a 全天重力レンズマップの作成 高橋龍一 (弘前大学)
11:18	U10a バリオン-ダークマター間の相対速度を含む宇宙論的構造形成 浅羽信介 (名古屋大学)	14:18	U21a 大規模シミュレーション群に基づく銀河-銀河レンズ効果のエミュレータ 西道啓博 (東京大学)
11:30	U11a 赤方偏移空間におけるバイスペクトル 橋本一彦 (京都大学)	14:30	U22a 擬似スペクトル法による銀河・銀河レンズスペクトル解析 日影千秋 (東京大学)
	U12c 宇宙定数 $\Lambda$ による光の曲がりに関する諸問題の検討 荒木田英禎 (日本大学)	14:42	U23a ハローパワースペクトルの新たな展開法 杉山尚徳 (Kavli IPMU)

## V1. 観測機器

		3月16日(水) 午前・D会場
14:54	U24a 銀河団におけるハロー・アセンブリ・バイアスの初検出 宮武広直 (NASA JPL/Caltech/ Kavli IPMU)	09:30 V101a ALMA の運用 (8) と拡張計画 (2) 井口聖 (国立天文台)
15:06	U25a SDSS 銀河団カタログの弱重力レンズ効果と数値宇宙論の比較による銀河団質量の検証 村田龍馬 (Kavli IPMU)	09:42 V102a ASTE の運用報告 (2) 奥田武志 (国立天文台)
15:18	U26a 高速電波バーストで探るバリオンおよび暗黒物質の小スケール密度揺らぎ 井上進 (理化学研究所)	09:54 V103a ASTE 新 3 カートリッジデュアの開発 藤井泰範 (国立天文台)
15:30	U27a M87 からの重力波 米丸直之 (熊本大学)	V104c ASTE 10 m 電波望遠鏡 THz 受信機の開発と搭載 相馬達也 (東京大学)
		10:06 V105b ASTE 望遠鏡用 230GHz 帯受信機の開発 坂根大雪 (電気通信大学)
		10:06 V106b New ALMA WebQL: a modern interactive client-server architecture for fast previewing of large ALMA datasets Yuji Shirasaki (国立天文台)
		10:06 V107b 野辺山宇宙電波観測所の運用 : 3 将来計画 齋藤正雄 (国立天文台)
		10:18 V108a 「FOREST」搭載 IF 広帯域化 100 GHz 帯 SIS ミクサの開発4 上月雄人 (大阪府立大学)
		10:30 V109a 200GHz 帯直列接合型素子の開発 : 電磁界解析による MSL の設計と特性 加藤智隼 (名古屋大学)
		10:42 V110a GLT 搭載用 230GHz 帯両円偏波・両サイドバンド分離受信機の開発 (3) 長谷川豊 (大阪府立大学)
		10:54 V111a 野辺山 45m 電波望遠鏡搭載に向けた広帯域超伝導カメラ冷却光学系の開発 山田淑乃 (筑波大学)
		11:06 V112a ミリ波広帯域マイクロストリップ交差構造の開発 増田聖 (埼玉大学)
		11:18 V113a ミリ波帯用コプレナー導波路へのエアブリッジ構造の開発 伊藤和雅 (埼玉大学)
		11:30 V114a 野辺山 45m 電波望遠鏡搭載用 MKID カメラの観測システムの構築 永井誠 (筑波大学)

3月16日(水)午後・D会場			
13:30	V115a インフレーション宇宙を検証する LiteBIRD 計画の現状 羽澄昌史 (高エネルギー加速器研究機構 / カブリIPMU)	15:06	V126b 広帯域フィードの開発 (X) 氏原秀樹 (情報通信研究機構)
13:42	V116a CMB 偏光観測衛星 LiteBIRD における系統誤差の研究 VII 永田竜 (高エネルギー加速器研究機構)	15:06	V127b 電波点回折干渉計 (I) 奥村大志 (筑波大学)
13:54	V117a LiteBIRD MKID 焦点面検出器の設計 関本裕太郎 (国立天文台)	15:06	V128b 高萩 / 日立 32 m 電波望遠鏡の整備状況 (13) 米倉覚則 (茨城大学)
14:06	V118a CMB 観測衛星 LiteBIRD の光学系の開発と 1/3 スケールモデル実験報告 井上将徳 (大阪府立大学)	15:18	V129b 臼田 64m 等の衛星・探査機用アンテナを利用した電波天文観測のシステムと今後の方向性について 村田泰宏 (宇宙航空研究開発機構)
14:18	V119a 宇宙マイクロ波背景放射偏光観測実験 POLARBEAR-2 計画の概要と現状 西野玄記 (高エネルギー加速器研究機構)	15:18	V130b JAXA 臼田64m アンテナ用 C バンド低雑音受信機の開発 石川聡一 (東京大学)
14:30	V120a 宇宙マイクロ波背景放射 B モード偏光観測実験 POLARBEAR-2 における受信システムのビームマップ測定 濱田崇穂 (東北大学 / 高エネルギー加速器研究機構)	15:18	V131b 那須の空間・時間的な干渉計と V404 Cyg 大師堂経明 (早稲田大学)
14:42	V121a ミリ波帯における検出器の偏光特性評価システムの開発と冷却試験 瀬川優子 (総合研究大学院大学)	15:30	V132b SMILES-2 の 1.9 THz 帯ヘテロダイナリモートセンシングによる太陽系地球型惑星の大気放射輸送モデル 西田侑治 (大阪府立大学)
14:54	V122b LiteBIRD クロスドラゴン光学系設計 : 非球面次数と性能 鹿島伸悟 (国立天文台)		V133c 臼田 64m アンテナ搭載を目的とした L、C バンド高感度受信機系の開発 (1) 春日隆 (法政大学)
14:54	V123b 300-500 GHz 広帯域直交偏波分離器 (OMT) の開発 (2) 高橋諒 (大阪府立大学)		V134c VLBI 用ソフトウェア関連処理システムの開発と定常運用化 小山友明 (国立天文台)
14:54	V124b NbTiN 超伝導細線による 1.9 THz 帯導波管型 HEB ミキサ検出素子の開発 齊藤滉介 (大阪府立大学)		V135c 気球 VLBI ミッションの検討 VI 土居明広 (宇宙航空研究開発機構)
	V125c 人工原子量子ドット素子によるヘテロダイナ / フォトン検出素子の開発 齊藤滉介 (大阪府立大学)		V136c AXIe 12ビット高速デジタイザによるデジタル分光計の性能評価 永井誠 (筑波大学)
			V137c 国際コンソーシアムによる野辺山電波ヘリオグラフの運用 1 増田智 (名古屋大学)

## V2. 観測機器

3月17日(木) 午前・D会場		3月14日(月) 午後・D会場	
09:30	V138a きゃらばん・サブミリと一般論としてのVLBIデータ校正の確認法 三好真(国立天文台)	13:00	V201a 「あかり」中間赤外線全天マップの一般公開に向けた現状報告 中道恵一郎(名古屋大学)
09:42	V139a 疎性モデリングを用いたサブミリ波VLBIによるSgr A*の撮像シミュレーション 倉持一輝(東京大学/国立天文台)	13:12	V202a スペース赤外望遠鏡における波面補正のための極低温用可変形鏡の開発 高橋葵(総合研究大学院大学/宇宙航空研究開発機構)
09:54	V140a PRECL法によるクロージャー位相からビジビリティ位相の復元 池田思朗(統計数理研究所)	13:24	V203a SOLAR-C用軽量化可視光イメージスライサーの開発 末松芳法(国立天文台)
10:06	V141a 太陽系地球型惑星大気環境監視プロジェクトSPARTの進捗報告 前澤裕之(大阪府立大学)	13:36	V204a SPICA(次世代赤外線天文衛星):再定義完了 芝井広(大阪大学)
10:18	V142a 雲発生予測システムの開発-60GHz帯試作受信機開発と大気観測試験 長崎岳人(高エネルギー加速器研究機構)	13:48	V205b SOLAR-C偏光分光観測のための近赤外線カメラと面分光装置の開発 勝川行雄(国立天文台)
10:30	V143a 8素子空間FFT型干渉計による電波観測 遊馬邦之(早稲田大学)	13:48	V206b SPICA中間赤外線観測装置SMIの予想性能評価 左近樹(東京大学)
		13:48	V207b 次世代宇宙観測に向けた超高精度太陽センサ(UFSS)の開発 清水敏文(宇宙航空研究開発機構)
		14:00	V208a Nano-JASMINEと小型JASMINEの概要と全般的な状況 郷田直輝(国立天文台)
		14:12	V209b 巨大ブラックホール進化解明のための小型JASMINEの解析手法 矢野太平(国立天文台)
		14:12	V210b 小型JASMINEの軌道上での焦点調整方法 鹿島伸悟(国立天文台)
		14:12	V211b 小型JASMINE衛星の検出器ボックスの検討状況について 上田暁俊(国立天文台)
			V212c Nano-JASMINEデータ解析の準備状況 山田良透(京都大学)

		3月15日(火) 午前・D会場	
14:24	V213b 宇宙赤外線背景放射の観測用ロケット 実験 CIBER-2: 望遠鏡システム 新井俊明 (東北大学)	09:30	V219a TMT 計画 - 進捗報告 臼田知史 (国立天文台)
14:24	V214b 宇宙赤外線背景放射の観測用ロケット 実験 CIBER-2: 広視野撮像装置 白旗麻衣 (国立天文台)	09:42	V220a TMT 計画-主鏡フルサイズセグメント の量産工程開発 2 山下卓也 (国立天文台)
14:24	V215b nuMOIRCS Project: Detector Upgrade and the First On-sky Test 田中竜 (国立天文台)	09:54	V221a 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA: 全体 報告 大石奈緒子 (国立天文台)
14:36	V216a 地球型惑星検出のためのすばる赤外 線ドップラー分光器 IRD の開発: 11 小谷隆行 (アストロバイオロジーセ ンター / 国立天文台 / 総研大)	10:06	V222a Development of the Vibration Isolation Systems for KAGRA Fabian Peña Arellano (国立天文台)
14:48	V217a IRドップラー観測用光周波数コムの特 性評価 森貴宏 (東京農工大学 / 国立天文台)	10:18	V223a 光ファイバベース 1.55 $\mu$ m(193 THz) ヘテロダイン光干渉計の検討 木内等 (国立天文台)
	V218c 可視面分光装置 Kyoto3DII における 新CCDシステムの性能評価と試験観 測 満田和真 (東京大学)	10:30	V224a 広帯域極限高コントラスト観測を目指 した3層8分割位相マスクの開発 村上尚史 (北海道大学)
		10:42	V225a すばる望遠鏡用極限補償光学装置 「SCExAO」の現状 工藤智幸 (国立天文台)
			V226c 瞳遮蔽対応バイナリ瞳マスクコロナグ ラフの開発 樋香奈恵 (宇宙航空研究開発機構)
		10:54	V227b ひとみ望遠鏡の性能評価の進捗 溝口小扶里 (仙台市天文台)
		10:54	V228b 東京大学アタカマ天文台近赤外線観 測装置 SWIMS 小西真広 (東京大学)
		10:54	V229b 東京大学アタカマ天文台中間赤外線 観測装置 MIMIZUKU 上塚貴史 (東京大学)
		11:06	V230a 中間赤外線高精度モニタリングに向け た二視野同時観測手法の開発 内山允史 (東京大学)
		11:18	V231a TAO 6.5m 望遠鏡エンクロージャー設 計における非定常数値風況解析 小西真広 (東京大学)



3月15日(火) 午後・D会場		
13:30	V232a 明野 50cm 可視光望遠鏡の 2015 年度運用実績 藤原太智 (東京工業大学)	14:42 V244b 東広島天文台 HONIR における近赤外バックグラウンド放射の季節依存性 中岡竜也 (広島大学)
13:42	V233b 西はりま天文台「なゆた望遠鏡」の運用 伊藤洋一 (兵庫県立大学)	14:54 V245a ハイパー望遠鏡における撮像画像処理の計算機シミュレーション II 中井悠人 (北海道大学)
13:42	V234b ショートガンマ線バーストの可視即時分光観測のための自動 ToO アラート発令システム 松林和也 (京都大学)	15:06 V246a 3 点法による大型自由曲面光学素子の計測 栗田光樹夫 (京都大学)
13:42	V235b 光赤外線大学間連携事業における共通自動即時測光パイプラインの開発 斉藤嘉彦 (東京工業大学)	15:18 V247a 京大岡山 3.8m 望遠鏡：高コントラスト惑星撮像装置 SEICA の撮像性能 山本広大 (大阪大学)
13:54	V236a モノモルフ DM(DMP40) の小型可視補償 AO への搭載 北尾栄司 (京都産業大学)	V248c 木曾 105cm シュミット /KWFC による 501nm および 659nm 狭帯域撮像 西浦慎悟 (東京学芸大学)
14:06	V237b 3 波長同時偏光撮像装置 (MuSaSHI) の開発 潮田和俊 (埼玉大学)	
14:06	V238b 埼玉大学 55cm 望遠鏡 SaCRA の同時測光分光観測システム構築 柴田吉輝 (埼玉大学)	
14:06	V239b 小型エシェル分光器の開発 大朝由美子 (埼玉大学)	
14:18	V240a 木曾超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e プロトタイプ機の性能評価 菊池勇輝 (東京大学)	
14:30	V241a 木曾超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e の開発 -Tomo-e プロトタイプ機の開発および試験観測の報告 大澤亮 (東京大学)	
14:42	V242b 法政大学二連望遠鏡 HOTATE の観測システムの構築 大橋龍太郎 (法政大学)	
14:42	V243b IRSF 望遠鏡で可視・近赤外線同時観測を行うための可視カメラの開発 永山貴宏 (鹿児島大学)	

## V3. 観測機器

3月15日(火)午後・F会場			
13:30	V301a CALETガンマ線バーストモニタ(CGBM)の初期科学運用 中平聡志(宇宙航空研究開発機構)	14:30	V313b 湾曲結晶を用いたX線偏光計の開発 飯塚亮(宇宙航空研究開発機構)
13:42	V302b CALETガンマ線バーストモニター初期運用における性能評価と較正 瀬沼一真(青山学院大学)	14:42	V314a 炭素繊維強化プラスチックを用いた次世代X線望遠鏡の開発 島直究(名古屋大学)
13:42	V303b すざくソースカタログの開発(III) 海老沢研(宇宙航空研究開発機構)	14:54	V315b 将来衛星搭載に向けた超軽量X線望遠鏡開発の現状 中村果澄(首都大学東京)
13:42	V304b すざく衛星に搭載されたX線CCDカメラXISにおけるnoisyピクセルの評価とその除去手法の確立 坂田美穂(宮崎大学)	14:54	V316b 汎用4回反射型X線望遠鏡の開発 馬場崎康敬(名古屋大学)
13:54	V305a ISS搭載を目指したGRB偏光度検出器LEAPの開発および性能評価について 上田達也(山形大学)	14:54	V317b マイクロマシン技術を用いた超軽量X線望遠鏡の振動試験 寺田優(首都大学東京)
14:06	V306a X線偏光観測衛星PRAXySの進捗状況 玉川徹(理化学研究所)	15:06	V318b 微細加工技術を用いた12inchシリコン光学系のX線反射実証 石川久美(理化学研究所)
14:18	V307a GRB偏光観測用超小型衛星TSUBAMEの総括 谷津陽一(東京工業大学)	15:06	V319b バイナリブラックホール探査衛星ORBISに向けたMEMSX線光学系の設計検討 武内数馬(首都大学東京)
14:30	V308b PolariS搭載用硬X線撮像偏光計の開発:新構造モデルの開発 Kim Juyong(大阪大学)	15:06	V320b TES型X線マイクロカロリメータを用いた高精度X線分光システムの構築(2) 星野晶夫(立教大学)
	V309c 硬X線偏光検出器PoGOLite気球実験:2016年の再フライトに向けての準備状況 高橋弘充(広島大学)	15:18	V321b 積層配線TES型X線カロリメータの表面粗さと超伝導転移の研究 鈴木翔太(首都大学東京)
14:30	V310b HiZ-GUNDAMおよび金沢大学超小型衛星に向けた高利得アナログ集積回路の開発 吉田和輝(金沢大学)	15:18	V322b ASTRO-H搭載軟X線CCDカメラの応答関数の構築(2) 井上翔太(大阪大学)
	V311c 新型MPPCを用いた低エネルギーGRB偏光観測装置の可能性 河合謙太郎(金沢大学)	15:18	V323b ASTRO-H搭載軟X線撮像検出器SXIにおけるCTI異常領域とその較正手法 内田裕之(京都大学)
	V312c 多チャンネルMPPCアレイのゲイン微調整機構の開発とその応用 河合誠之(東京工業大学)		

3月16日(水) 午前・F会場			
09:30	V324a 軟X線から硬X線の広帯域を高感度で撮像分光する小型衛星計画 NGHXTの現状(3) 森浩二(宮崎大学)	11:18	V336a 太陽X線観測用超高精度 Wolterミラーの研究開発 坂尾太郎(宇宙航空研究開発機構)
3月16日(水) 午後・F会場			
09:42	V325a NGHXTに搭載する広帯域ハイブリッドX線撮像分光器 WHXIの開発(3) 鶴剛(京都大学)	13:30	V337a ダークバリオン探査ミッション DIOS 開発の進展状況 大橋隆哉(首都大学東京)
09:54	V326a SOI技術を用いた新型X線撮像分光器の開発 13: 裏面照射型素子の軟X線性能評価 伊藤真音(京都大学)	13:42	V338a 小型衛星計画 DIOS 搭載 4 回反射 X線望遠鏡の製作とその評価 萬代絢子(名古屋大学)
10:06	V327a SOI技術を用いた新型X線撮像分光器の開発 14: Double-SOI 構造素子の性能 大村峻一(京都大学)	13:54	V339a GHz 帯 LC 共振器を用いた極低温下での誘電体マイクロカロリメータによるX線検出実験 星野全俊(宇宙航空研究開発機構)
10:18	V328a 次世代X線衛星での応用を目指した1-80 keVの広帯域におけるアクティブシールドの最適化 古田禄大(東京大学)	14:06	V340a ASTRO-H 搭載 精密軟X線分光装置 SXSの開発の現状 XV 辻本匡弘(宇宙航空研究開発機構)
10:30	V329b NGHXT 高角度分解能硬X線望遠鏡に向けた、成膜による変形の調査 佐治重孝(名古屋大学)	14:18	V341a ASTRO-H 搭載精密軟X線分光装置(SXS)の初期運用熱解析 野田博文(理化学研究所)
10:30	V330b 次世代X線撮像分光器(XRPIX)の開発と基本性能の温度依存性の評価 玉澤晃希(東京理科大学)	14:30	V342a ASTRO-H 衛星搭載軟X線撮像検出器 SXIの現状 田中孝明(京都大学)
	V331c 広天域硬X線観測モニターのAPD専用低ノイズLSIの性能評価 河合誠之(東京工業大学)	14:42	V343a ASTRO-H SXT 用反射鏡の金のL吸収端付近の反射率測定と応答関数構築用の原子散乱因子 菊地直道(首都大学東京)
10:42	V332a 広帯域X線イメージセンサSDCCD(Scintillator Deposited CCD)の硬X線分光性能評価 今谷律子(大阪大学)	14:54	V344a ASTRO-H 搭載軟X線望遠鏡の迷光の較正 倉嶋翔(首都大学東京)
10:54	V333a X線多重像干渉計の概念検討 林田清(大阪大学)	15:06	V345a ASTRO-H 衛星搭載硬X線撮像検出器(HXI)の現状打ち上げ 中澤知洋(東京大学)
	V334c 補償光学を利用したX線直入射望遠鏡; X-mas Project 北本俊二(立教大学)	15:18	V346a ASTRO-H 衛星搭載 軟ガンマ線検出器(SGD)コンプトンカメラの偏光ビーム試験 枝廣育実(広島大学)
11:06	V335a 集束イオンビームを用いたSiミラーにおけるX線反射実証 沼澤正樹(首都大学東京)		

## W1. 高密度星

3月17日(木) 午前・F会場	3月15日(火) 午後・E会場
09:30 V347a 磁気回折のX線偏光解析への応用についてII 安達弘通(信州大学)	14:06 W101a エディントン光度:再考II 福江純(大阪教育大学)
09:42 V348a iWF-MAXI:国際宇宙ステーション搭載広天域軟X線監視ミッション 河合誠之(東京工業大学)	14:18 W102a ブラックホールへの落下ガス雲撮像画像を用いたKerr時空の新検証法 森山小太郎(京都大学)
09:54 V349a 超小型衛星を用いた重力波に同期したX線突発天体探査 澤野達哉(金沢大学)	14:30 W103a ブラックホールの曲がった時空の効果を直接観測する原理と方法3 齋田浩見(大同大学)
10:06 V350a 超小型衛星搭載を目指した軟X線撮像検出器の開発 加川保昭(金沢大学)	14:42 W104a Blandford-Znajek過程とPenrose過程の関係2 当真賢二(東北大学)
10:18 V351a ETCCによる高感度MeV $\gamma$ 線イメージング核分光の実現と新しい核宇宙物理学観測 谷森達(京都大学)	14:54 W105a GRMHD数値実験によるブラックホール降着円盤とジェット非軸対称性の重要性 水田晃(理化学研究所)
10:30 V352a Cherenkov Telescope Array (CTA) 計画:全体報告(10) 手嶋政廣(東京大学)	15:06 W106a 超臨界降着円盤からのブラックホール風の観測的特徴 折橋将司(大阪教育大学)
10:42 V353a First results of the camera prototype for the Large Size Telescopes of the Cherenkov Telescope Array Daniela Hadasch (ICRR, U. Tokyo)	15:18 W107a 多波長データを用いたブラックホール連星 GRO J1655-40 の円盤風の研究 志達めぐみ(理化学研究所)
10:54 V354a CTA 大口径望遠鏡用分割鏡制御システムの試験構造体を用いた運用試験 深見哲志(東京大学)	
11:06 V355a CTA 大口径望遠鏡による2FHLソースの観測シミュレーション Dang Viet Tan(茨城大学)	
11:18 V356a Resolving the extragalactic background light with the MAGIC telescopes Daniel Mazin (ICRR, U. Tokyo)	

3月16日(水) 午前・E会場			
09:30	W108b ブラックホール磁気降着流からの高エネルギー輻射 黒田健太(愛知教育大学)	10:06	W120a 銀河系の巨大ブラックホールを周回する星 S2 の視線速度モニター計画 西山正吾(宮城教育大学)
	W109c 微小回転のブラックホールから外向きの電磁エネルギー流の生成機構 小島康史(広島大学)	10:18	W121a 「すざく」によるブラックホール連星 Cygnus X-1 のソフト状態におけるハードテイル成分の解析(2) 奥田和史(東京大学)
	W110c 全天 X 線監視装置 MAXI/GSC が観測した X 線バーストの系統的な解析 坂本貴紀(青山学院大学)	10:30	W122a MAXI による Cyg X-1 の 5.6 日軌道周期変動 杉本樹梨(理化学研究所/立教大学)
09:30	W111b 差分変動率法を用いたブラックホール天体 Cyg X-1 の長時間変動の解析 大枝克弥(明星大学)	10:42	W123a 恒星風へのフィードバックを考慮した High Mass X-Ray Binary の質量降着モデル 谷治健太郎(首都大学東京)
09:30	W112b ブラックホール連星 LMCX-3 の high/soft 状態における円盤コロナモデルの検証 齋藤隆成(芝浦工業大学)	10:54	W124a V404 Cygni のアウトバーストにおける規則的な短時間変動の発見 木邑真理子(京都大学)
09:42	W113b 降着円盤歳差運動による超軌道周期 X 線光度曲線の再現 阿久津貴晃(明星大学)	11:06	W125a ブラックホール連星 V404 Cyg におけるジェット放射への制限: 可視近赤外線偏光観測と広帯域スペクトルモデリング 田中康之(広島大学)
09:42	W114b ガンマ線連星 B1259-63/LS 2883 に対する初めてのミリ波観測 山口正輝(国立天文台)	11:18	W126a 位置天文観測による長周期ブラックホール連星の探査 山口正輝(国立天文台)
09:42	W115b 「すざく」が観測したマグネターのサイクロトロン共鳴線の探査 宮崎直人(首都大学東京)	11:30	W127a TeV ガンマ線連星 HESS J0632+057 における吸収量の位相依存性 河野貴文(広島大学)
09:54	W116b 那須パルサー観測所による Crab パルサーの電波モニタリング 青木貴弘(早稲田大学)		
09:54	W117b パルサーの距離情報を用いた銀河系内電離ガス密度分布推定 III 亀谷収(国立天文台)		
	W118c 中性子星連星合体の系内残骸からの r 過程核の崩壊 $\gamma$ 線の観測可能性 澤田涼(京都大学)		
09:54	W119b 超臨界降着円盤からのクランピーアウトフローの3次元高精度放射流体シミュレーション 小林弘(総合研究大学院大学)		

3月16日(水) 午後・E会場		3月17日(木) 午前・E会場	
13:30	W128a カニパルサー巨大電波パルスの Stacking 解析 三上諒 (東京大学)	09:30	W137a マグネター 4U 0142+61 の硬 X 線パルス位相変調: NuSTAR データの解析 牧島一夫 (理化学研究所)
13:42	W129a Fermi 衛星による若いパルサー PSR J2022+3842 の $\gamma$ 線長期観測 大内遙河 (東京工業大学)	09:42	W138a マグネターの磁場強度と硬X線放射の相関: すぎく観測のまとめ 榎戸輝揚 (京都大学)
13:54	W130a X 線連星パルサー GX1+4 の降着柱からの放射 吉田裕貴 (立教大学)	09:54	W139a 強い電磁場の量子効果による真空の屈折率の変化 矢田部彰宏 (早稲田大学)
14:06	W131a X 線光度にみる電波パルサーの活動性磁場の存在確率 渡邊瑛里 (山形大学)	10:06	W140a MAXI が検出した 2015 年度後半の突発現象と検出限界光度近く of 突発天体の検出 根来均 (日本大学)
14:18	W132a 全天 X 線監視装置 MAXI による長い X 線バーストの観測 芹野素子 (理化学研究所)	10:18	W141a MAXI 未同定ソフトランジェント MAXI J1501-026 の可能な天体は? 松岡勝 (理化学研究所)
14:30	W133a MAXI/GSC と Swift/BAT による LMXB の Z ソースのコンプトン成分 浅井和美 (理化学研究所)	10:30	W142a MAXI 未同定短時間軟X線ランジェント (MUSST、マスト天体) 三原建弘 (理化学研究所)
14:42	W134a 低質量連星中性子星の長時間発展 木内建太 (京都大学)	10:42	W143a Swift 衛星による NGC1313 X-1 の 900 日連続観測 吉田鉄生 (国立天文台)
14:54	W135a $z > 10$ の初代天体における中性子星連星の合体 田川寛通 (東京大学)	10:54	W144a 熱的コンプトン過程を用いた ULX 天体の統一的な描像 小林翔悟 (東京大学)
15:06	W136a 核子の超流動・超伝導状態を考慮した中性子星の冷却 野田常雄 (久留米工業大学)	11:06	W145a ULX パルサーの超臨界降着シミュレーション 川島朋尚 (国立天文台)
		11:18	W146a 中性子星周囲の超臨界降着円盤の一般相対論的輻射磁気流体シミュレーション 大須賀健 (国立天文台 / 総合研究大学院大学)

## W2. 高密度星

3月15日（火）午前・E会場		3月15日（火）午後・E会場	
10:30	W201b Submillimeter follow-ups of Gamma-Ray Burst Afterglows using SMA and ALMA 浦田裕次（台湾国立中央大学）	13:30	W210a The Third Swift BAT GRB catalog 坂本貴紀（青山学院大学）
10:42	W202a 超大質量星の起こすガンマ線バーストに伴った非常に明るい超新星 松本達矢（京都大学）	13:42	W211a Fermi データを用いた Fast Radio Bursts の全天ガンマ線探査 山崎翔太郎（東京大学）
10:54	W203a ガンマ線バーストジェット内での最高エネルギー宇宙線の加速 浅野勝晃（東京大学）	13:54	W212a CALET ガンマ線バーストモニター (CGBM) による GRB の観測 川久保雄太（青山学院大学）
11:06	W204a 準相対論的な速度で自由膨張するエジェクタと星周物質との流体力学的相互作用 鈴木昭宏（京都大学）		
11:18	W205b 相対論的流体場中の輻射輸送における高エネルギー電子の影響 鍋島史花（東北大学）		
11:18	W206b 古典新星 V2659 Cyg (=Nova Cyg 2014) にみられた吸収線の起源 新井彰（京都産業大学）		
	W207c 共生連星 AG Pegasi の 2015 年増光時における分光観測 田邊健茲（岡山理科大学）		
11:18	W208b Nova Sgr 2015 No.2(V5668 Sgr) の近赤外線 JHK バンドでの光度変化 栄木美沙紀（鹿児島大学）		
	W209c WZ Sge 型矮新星の分布 田邊健茲（岡山理科大学）		

## X. 銀河形成

3月16日(水) 午前・G会場		3月16日(水) 午後・G会場	
09:30	X01a 超新星爆発の影響下における初代銀河の進化と星形成史 矢島秀伸(東北大学)	13:30	X13a Evolution of mid-infrared galaxy luminosity functions from the entire AKARI NEP-Deep field with new CFHT photometry Tomotsugu Goto (National Tsing Hua Univ.)
09:42	X02a Non-linear violent disc instability with high Toomre's Q in high-redshift clumpy disc galaxies 井上茂樹(エルサレム・ヘブライ大学)	13:42	X14a SDSSと「あかり」で探る、「新たなバースト」を起こしている近傍主系列銀河 村田一心(宇宙航空研究開発機構)
09:54	X03a ALMAとHSTで捉えた銀河形成最盛期のバルジ形成 但木謙一(Max-Planck-Institut fuer extraterrestrische Physik)	13:54	X15a 「あかり」遠赤外線全天マップのスタッキング解析による星形成銀河のダスト温度と銀河環境の関係について 松木康裕(東京大学)
10:06	X04a 衛星銀河の星生成と大質量コンパクト銀河との合体進化 市川隆(東北大学)	14:06	X16a サブグリッドの物理を考慮した孤立銀河内でのダスト形成シミュレーション 青山尚平(大阪大学)
10:18	X05a 激動進化期における星形成銀河のIMFはtop-heavyか? I 前田郁弥(京都大学)	14:18	X17a 野辺山45m電波望遠鏡とALMAで探る $z \sim 1.4$ のガス・ダスト比 世古明史(京都大学)
10:30	X06a 激動進化期における星形成銀河のIMFはtop-heavyか? II 猪口睦子(京都大学)	14:30	X18a A cosmological PAH survey by SPICA - 塵に隠された銀河とAGNの進化を探る 和田武彦(宇宙航空研究開発機構)
10:42	X07a 直接温度法で探る $z=0-4$ 星形成銀河のN/O元素組成比の進化 小島崇史(東京大学)	14:42	X19a AGNクラスタリング解析によるAGNの活動性への制限 大木平(文教大学)
10:54	X08a $z \sim 2$ における $H\alpha$ および[OIII]輝線で選ばれた銀河サンプルの比較 鈴木智子(総合研究大学院大学)	14:54	X20a 超大質量ブラックホールに付随するcircum nuclear diskがブラックホール成長に与える影響についての準解析的銀河形成モデルを用いた研究 白方光(北海道大学)
11:06	X09b 高解像度Pa $\alpha$ 撮像で分解する合体途上銀河の星形成活動 美濃和陽典(国立天文台)	15:06	X21a Subaru High- $z$ Exploration of Low-Luminosity Quasars 松岡良樹(国立天文台)
11:06	X10b ダスト存在下での輻射性フィードバックによるアウトフローの駆動過程 一色翔平(北海道大学)	15:18	X22a AGNの光度変光と母銀河の色選択による高赤方偏移・小質量SMBHサンプルの獲得 木村勇貴(東北大学)
11:06	X11b SDSSデータで統計的に探る星形成銀河のアウトフロー 菅原悠馬(東京大学)		
11:18	X12b 銀河系内成分の近赤外線背景放射への寄与 佐野圭(東京大学/宇宙航空研究開発機構)		



## Y. 天文教育・その他

3月17日(木) 午前・G会場		3月14日(月) 午後・C会場	
09:30	X23a Revisiting the Intra-Halo Light Model as the Origin of the Cosmic Near-infrared Background Radiation 小林正和(愛媛大学)	13:00	Y01a 「はやぶさ2」地球スイングバイ観測キャンペーンデータの解析 吉川真(宇宙航空研究開発機構)
09:42	X24a 大規模構造のフィラメントにある中性水素 21cm 線シグナル 堀井俊宏(名古屋大学)	13:12	Y02a 「はやぶさ2」地球スイングバイ観測キャンペーンの実施報告 井上毅(明石市立天文科学館)
09:54	X25a 6次元位相空間上での Vlasov シミュレーションにおける高次精度化 田中賢(東京大学)	13:24	Y03a はやぶさ2 がめざしている小惑星の名称案募集とその波及効果 矢部あずさ(宇宙航空研究開発機構)
10:06	X26a 矮小楕円体銀河におけるダークハロー進化と星形成史の研究 岡安優佑(東北大学)	13:36	Y04a IAU 太陽系外惑星命名キャンペーンへにおける国内での取り組み 臼田-佐藤功美子(国立天文台)
10:18	X27a 4重像レンズにおけるフラックス比異常の起源について 井上開輝(近畿大学)	13:48	Y05a IAU・OAO の活動から見てきた天文教育・普及諸課題の考察 縣秀彦(国立天文台)
10:30	X28a HSC すばる戦略枠観測に基づく原始銀河団候補領域の選択 内山久和(総合研究大学院大学)	14:00	Y06a ホノルル IAU 総会における天文宇宙用語の発音調査 佐藤勲(日本大学)
10:42	X29a 赤方偏移 8 の銀河高密度領域の性質と銀河団コア形成への示唆 石垣真史(東京大学)	14:12	Y07a 国立天文台・星と宇宙の日でのアストロバイオロジー企画による宇宙生命に対する意識調査 日下部展彦(自然科学研究機構)
10:54	X30a DLA 集中領域における輝線天体の探査 小倉和幸(愛媛大学)	14:24	Y08a AURORA 4D PROJECT(1): 計画概要と異分野連携研究の分析 玉澤春史(京都大学)
11:06	X31a Cosmic HydrOgen Reionization Unveiled with Subaru (CHORUS) 井上昭雄(大阪産業大学)	14:36	Y09b リーダー教育に天文学は役立つか? 高梨直紘(東京大学)
		14:36	Y10b 星空案内人資格認定制度運営機構の最近の活動について 柴田晋平(山形大学)
		14:36	Y11b かわさき宙と緑の科学館で捉えた「はやぶさ2地球スイングバイ」 佐藤幹哉(かわさき宙と緑の科学館)

			3月15日(火) 午前・C会場
14:48	Y12b	デジカメ星空診断「夜空の明るさをはかるキャンペーン」の展開 小野間史樹(星空公園)	09:30 Y19a 4次元デジタル宇宙ビューワー「Mitaka」の多言語化について 加藤恒彦(国立天文台)
14:48	Y13b	SDSS DR7 日本語版ウェブサイトの構築 吉田尚洋(法政大学)	09:42 Y20a 天文台活動と社会の関係ーすばる望遠鏡の見学プログラムについて 林左絵子(国立天文台)
14:48	Y14b	HEALPix法を用いた全天モニタ画像検索システムの開発 小澤友彦(紀美野町文化センター)	09:54 Y21a 地域連携を通じた教育普及・科学史調査ー日本初のロケット発射場、秋田の場合 阪本成一(国立天文台)
15:00	Y15b	全天モニタ画像の位置較正 小澤友彦(紀美野町文化センター)	10:06 Y22a 地域活性化に繋がった天文台20周年記念イベント 矢動丸泰(紀美野町みさと天文台)
15:00	Y16b	流星の移動方向が1観測点でわかるHRO法 吉田英人(東京大学)	10:18 Y23a 市民とともに夜空の明るさ調査 ひらつか星空調査隊について 塚田健(平塚市博物館)
	Y17c	木曾105cmシュミット鏡/2kCCD/4度プリズムによる恒星の対物分光データの教材化 西浦慎悟(東京学芸大学)	10:30 Y24a 科学ライブショー「ユニバース」の20年 亀谷和久(東京理科大学)
	Y18c	自作分光器による太陽の高分散分光観測から求められる磁場、速度場 坂江隆志(埼玉県立浦和西高等学校)	10:42 Y25a 日本における公開天文台と天文教育との連携 李銀知(埼玉大学)
			10:54 Y26a 教員向け研修事業の実践と課題について 茨木孝雄(国立天文台)
			11:06 Y27a 教育現場における天体観測室の構築例 佐々井祐二(津山工業高等専門学校)
			11:18 Y28a 国立天文台水沢VLBI観測所収蔵「緯度観測所ガラス乾板コレクション」のデジタル化 馬場幸栄(お茶の水女子大学)

2016年2月20日発行

年会実行委員会

委員長	佐藤文衛	(東京工業大学)
委員	石川遼子	(国立天文台)
	酒井剛	(電気通信大学)
	左近樹	(東京大学)
	鈴木知治	(中部大学)
	鈴木竜二	(国立天文台)
	寺田幸功	(埼玉大学)
	永井洋	(国立天文台)
	諸隈智貴	(東京大学)
	中道晶香	(京都産業大学) 保育室担当

年会開催地理事

政井邦昭 (首都大学東京)